

石見銀山世界遺産センター

IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER

2009 年報
(平成21年度)



世界遺産 石見銀山遺跡とその文化的景観
Iwami Ginzan Silver Mine and its Cultural Landscape

はじめに

石見銀山世界遺産センターは、平成20年10月20日、大森町の遺跡中枢地の隣接地に全面開所し、平成21年度は施設の管理運営を本格的にスタートした初年度となりました。

世界遺産を後世に継承していくため、この世界遺産センターが拠点となるもので、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の持つ顕著で普遍的な価値を大切に守り、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神を、広く伝える役割を果たしています。

また、世界遺産センターの周辺に約400台分の駐車場を備え、来訪者が路線バスに乗り換えて遺跡の中心部と町並み保存地区へ向かう「パーク&ライド」の拠点基地となっています。地元町民と行政が話し合いを重ねた結果として、現地が「歩く観光」スタイルとなったことを様々な媒体で周知をはかり、観光客等へ浸透してきています。世界遺産センターにおいても、「世界遺産・石見銀山」の玄関口として遺跡の紹介だけではなく、周辺の地理案内や観光案内などの情報提供も充実させています。

平成20年4月から石見銀山課、島根県教育委員会の職員も駐在し、市県共同で石見銀山を研究し、守り、育み、価値を高め、活かす取り組みを進めています。継続して、基幹となる調査研究と遺跡の保全管理を着実にを行います。そして、世界遺産としての石見銀山遺跡の魅力を分かりやすく伝えていくためのガイダンス機能の充実を図り、皆さまのご期待に応えていけるよう取り組んでまいります。

この間、世界遺産の資産範囲の軽微な変更に関する諸資料の作成を行い、平成22年1月18日、国がユネスコへ「軽微な変更」について申請し、平成22年8月2日（月：現地日時）ブラジル国ブラジリアで開催された第34回世界遺産委員会において検討され、その変更が了承され、最終の決議は8月3日（火：現地日時）に行われましたことを申し添えます。

平成22年12月

大田市教育委員会教育長 小川和邦

目次

はじめに

目次

I. 石見銀山世界遺産センターの概要

1. 業務と組織等 4
世界遺産センターの業務・組織／世界遺産センターがめざすもの
2. 施設の概要 6
施設の配置・規模等／館内平面図／全体配置図
3. 展示の概要 9
展示のコンセプト／展示のテーマ

II. 管理運営業務の実施状況

- 平成21年度の概観 11
概観／平成21年度の入館者等の状況等／主な入館団体／誘客・広報事業

III. 総合調査研究業務の概要

1. 考古学的調査研究 16
発掘調査の概要／石造物調査の概要／海底調査の概要
2. 歴史・民族学的調査研究 22
文献調査の概要／地図・地名、人権・同和問題調査の概要／教育普及方法等調査の概要
3. 自然科学的調査研究 25
考古資料分析調査の概要／生物調査の概要／資産保全調査の概要
4. テーマ別調査研究 26
石見銀山遺跡の調査研究の概要／鉱山遺跡比較調査研究の概要／事業の実施概要

IV. 遺跡の保全・管理業務の概要

1. 資産の経過観察（モニタリング） 31
概要／定期報告『保全状態の測定にかかる指標』（抄）
2. 遺跡パトロール 32

V. 教育・普及業務の概要

1. 公開講座の開催 33
第3回「辻が花染丁子文道服再現品の制作」
第4回「代官 川崎平右衛門定孝－石見銀山に至るまで－」
第5回「地球科学から見た石見銀山とその周辺」
第6回「石見銀山。調査研究最前線！ ～鉱脈と鉱床～」

2. 夜学の開催	34
第1回「世界遺産センターが目指すもの」他 計11回	
3. 体験学習イベントの開催	37
仙ノ山ウォーク／銀山の製錬作業を体験しよう／福光石をほってみよう／	
「こもんじょ」を読んでもみよう／発掘調査現地見学会	
4. 情報コーナー展示の実施	40
発見！地下に眠る大森の町	
石見銀山遺跡発掘調査速報展～平成21年度調査 本谷・安原谷地区	
VI. 石見銀山遺跡関連事業の概要	
1. 史跡整備事業	41
2. 重要伝統的建造物群保存地区修理事業	44
大森銀山地区／温泉津地区	
3. 情報発信事業	47
石見銀山遺跡世界遺産登録2周年記念事業／第1回世界遺産フォーラム／写真・ポジ貸出実績	
4. その他の事業	51
石見銀山遺跡調査活用委員会／石見銀山遺跡保存管理委員会／石見銀山景観保全審議会／	
石見銀山協働会議／大久保間歩一般公開	
VII. 職員及び運営スタッフ	55
VIII. 利用案内	56
IX. 各種資料	
1. 石見銀山遺跡に関する活動等日誌	57
2. 石見銀山関係予算	62
3. 刊行物等	63
4. 関連法規	63
大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例	
大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例施行規則	
大田市石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例	
大田市石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例施行規則	

(注) 本年報内の所属・役職名等は、平成21年度当時のものです。

表紙の写真は「海上から見た石見銀山」
日本海上空、西から見た石見銀山。中央が温泉津湾

I. 石見銀山世界遺産センターの概要

1. 業務と組織等

世界遺産センターの業務・組織

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」全体の導入部（案内の玄関口）として、総合ガイダンスと展示解説機能を持ち、調査研究並びに遺跡の保全と管理、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神を情報発信することなどを担う拠点施設として、専門職員及びスタッフ等が常駐しています。

1) 世界遺産センターが担う業務

◇ガイダンス（遺跡を見て回る人に対して遺跡の価値や全体像の理解を促進）

- ①遺跡立体模型での説明やガイダンス映像の上映
- ②案内窓口の設置とスタッフの常駐
- ③地図・パンフレットの配布

◇展示・解説

- ①遺跡全体の解説や収集資料（含むレプリカ等）の展示と解説
- ②新たな調査・研究成果の展示と解説
- ③館内案内スタッフ、専門職員による総合解説

◇調査・研究

- ①調査・研究活動の拠点
- ②研究発表、シンポジウム等の開催

◇保全・管理

遺跡の日常的なパトロールと保全・管理

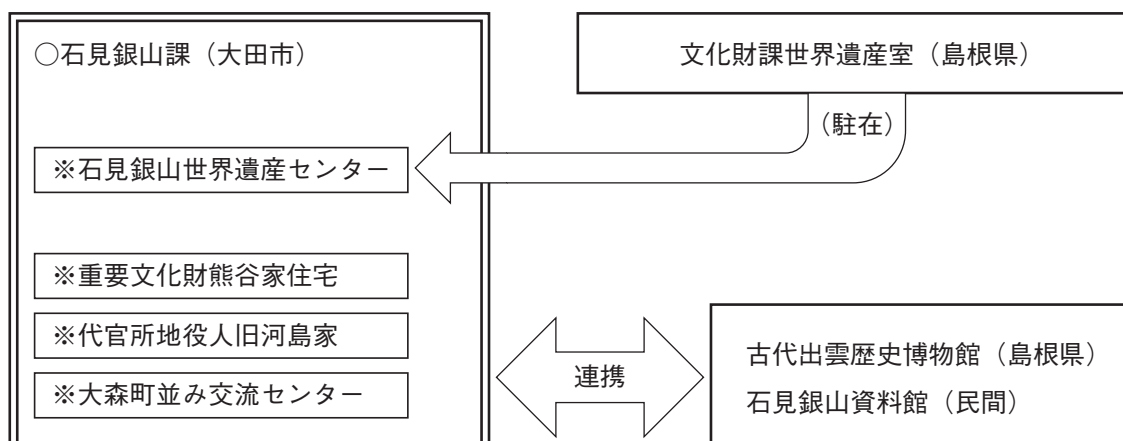
◇教育・普及

- ①案内書、解説書等の作成
- ②ホームページ等による情報発信
- ③体験学習（丁銀づくりや灰吹体験など）の実施
- ④講演会、講座等の開催

◇収集・保管

- ①関係史資料の収集及び保管
- ②史資料等のデータベース化

2) 組織



世界遺産センターがめざすもの

◇ユネスコの精神をまもり、未来へ引き継ぎます

平和と人権尊重の国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の精神に基づき、他の世界遺産と共に人類全体の宝である石見銀山遺跡をまもり、未来へ引き継いでいきます。

◇石見銀山の理解を助け、現地へ誘います

鉱山跡など多種多様な資産で構成され、かつ、広大な面積を有している石見銀山遺跡の全体像の理解を助けるため、適切なガイダンスを行います。そして、資産そのものである現地を歩き、見て、触れる機会を増進します。

◇調査研究を積極的に行います

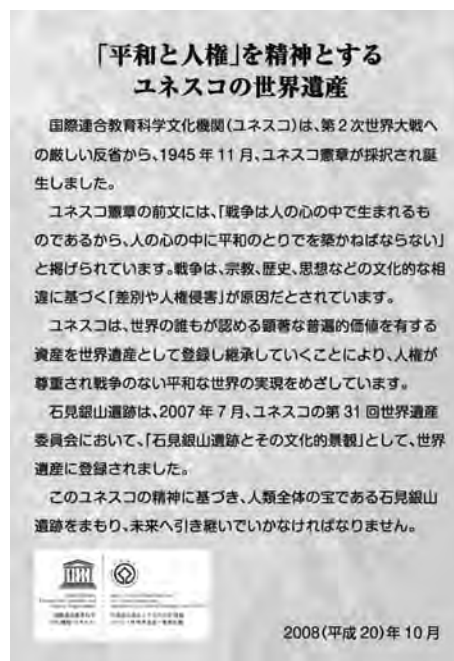
考古、文献などの人文科学分野と、科学、自然環境などの自然科学分野が密接に連携を取り合いながら総合的な調査研究を進めます。また、国内外の鉱山遺跡との比較研究などテーマ別の調査研究も行い、情報発信します。

◇遺跡の保安全管理活用を継続的に行います

良好なかたちで今に伝わる資産を適切なかたちで未来へ引き継ぐために、遺跡パトロールなど日常の保安全管理に努めます。同時に、継続した保全活動が実施できるよう官民協働の取り組みも促進します。また、現地資産そのものが展示物とみなされるため、資産の整備活用を進めます。

◇親しみのもてるセンターとします

現地施設と連携を密にし、地域住民が誇りを持ち、学校教育や生涯学習の機会のある場として、観光客を含め何度でも来館したくなるような交流拠点とします。また、現地説明会や体験学習、講座講演会などを定期的に開催し、親しみが持てる地域に開かれた運営を目指します。



▲ユネスコ憲章 (パネル)

2. 施設の概要

施設の配置・規模等

①所在 島根県大田市大森町イ1597番地3（第3駐車場：大森町イ1689番地（借地））

②用地関係

用途	面積	駐車台数など
建物敷地	4,100m ²	
第1駐車場	5,700m ²	普通車95台、身障者用4台、待機バス13台
第2駐車場	950m ²	普通車38台
第3駐車場	9,800m ²	普通車約250台
西側駐車場	530m ²	職員他関係者用

③建物関係

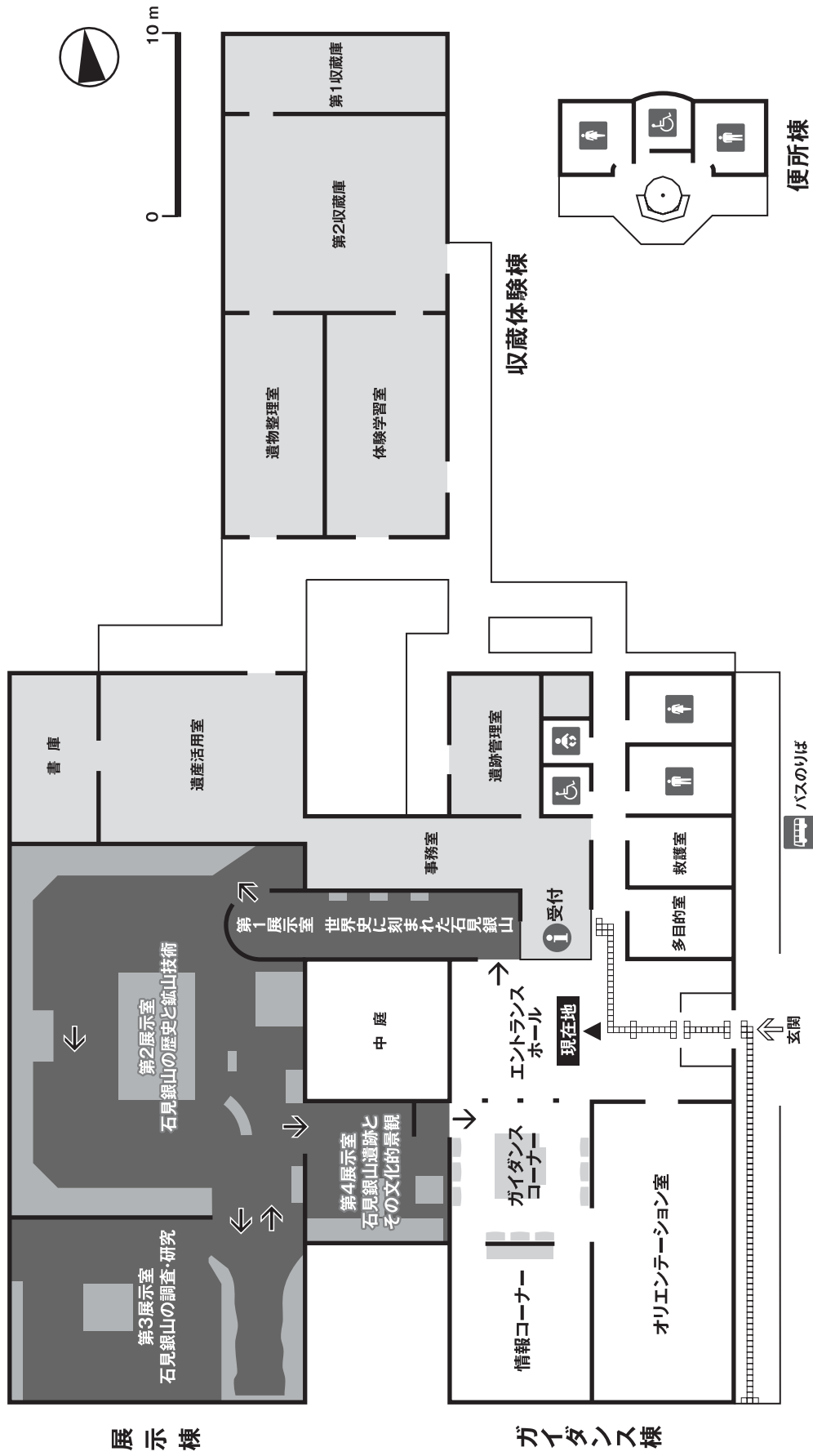
名称	延べ面積	構造	機能・役割
ガイダンス棟	763.47m ²	木造瓦葺き平屋建て	ガイダンス・便益（無料）
展示棟	720.69m ²	R C造瓦葺き一部2階建て	展示・解説（有料）、調査・研究、教育・普及
収蔵体験棟	477.53m ²	R C造瓦葺き一部2階建て	体験学習、収蔵・保管
車庫	33.00m ²	木造瓦葺き平屋建て	公用電気自動車2台
便所棟（既存）	111.78m ²	木造瓦葺き一部2階建て	



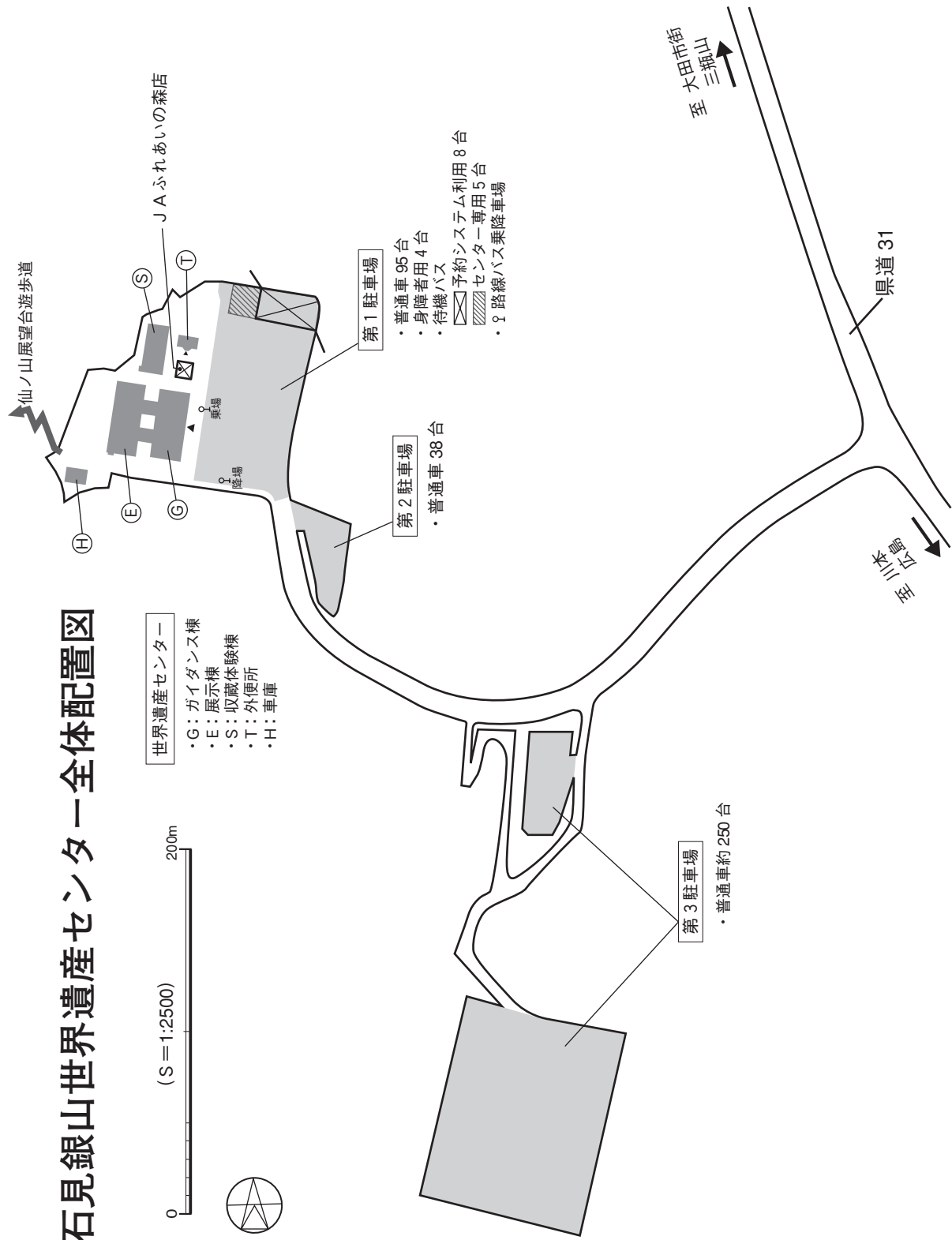
▲世界遺産センター全景

石見銀山世界遺産センター

IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER



石見銀山世界遺産センター全体配置図



3. 展示の概要

展示のコンセプト

石見銀山世界遺産センターは、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」（以下、「石見銀山」という。）のエントランス（入口）として、遺産のガイダンス（概要説明）機能を担っています。したがって、実物の歴史資料で構成される博物館や資料館とは性格が異なり、模型や、映像、レプリカ、再現品を中心に構成しました。また、埋蔵文化財センターとしての機能を有しており、発掘調査により出土した遺物の展示も行っています。

展示のテーマ

①無料展示室（ガイダンス棟）

石見銀山の全体像をわかりやすく理解できることを展示テーマとしました。広がりや構成要素の多様性を、遺跡立体模型やグラフィックパネル、情報パソコン、ガイダンス映像を使用し紹介しています。また、情報コーナーで、発掘調査を中心とした最新の調査研究の成果も速報展示しています。

②有料展示室（展示棟）

展示テーマは石見銀山が世界遺産に登録された「3つの価値」と、1996（平成8）年から進めてきた「石見銀山遺跡総合調査の成果」という、計4つのテーマから構成されています。

第1展示室「世界史に刻まれた鉱山遺跡－石見銀山」

石見銀山が16世紀の東西交易によって「人類の価値の重要な交流」に大きな役割を果たしたことを紹介しています。

第2展示室「石見銀山の歴史と鉱山技術」

石見銀山は、採掘から製錬の技術、支配、信仰、生活、銀の流通に至るまでの銀生産の総体が遺構として残るという「独特かつ稀な証拠」です。これを1)歴史、2)くらしと技術という2つのサブテーマで解説しています。

1) 石見銀山の歴史

16世紀の神屋寿禎による「銀山発見」から、大森の町の形成まで、映像や資料写真、復元品等で解説しています。

2) 石見銀山のくらしと技術

発掘調査の成果を中心に鉱山のくらしと技術を解説しています。

平成21年6月1日から、この「歴史」と「くらしと技術」のサブテーマの連結コーナーに、「国重要文化財・辻が花染丁子文道服の再現品」の展示公開を始めました。

この道服そのものは、石見銀山のゆかり深い清水寺（大田市大森町）が所蔵し、伝世の由来、辻が花染という染色技法、デザインの豊かさが17世紀初頭のシルバラッシュに湧いた様相を鮮やかに示しています。染織品の研究者の監修のもと、平成20年度の約1年をかけ、専



▲辻が花染丁子文道服（再現品）

門組織（株式会社染技連・京都市）の手によって再現しました。その再現過程もテストピースやパネルを使用して展示解説しています。

ただし、道服再現品の展示は、衣桁に掛け続けることによる傷みや照明と温湿度の影響を考慮し、期間を限定して公開することとしました。

****平成21年度公開実績****

第1期（6/1～7/5：35日） 第2期（8/12～8/31：20日） 第3期（10/17～11/8：23日）
第4期（12/19～1/11：24日） 第5期（3/13～3/31：19日） 年間計121日

第3展示室「総合調査の成果」

自然科学、文献、石造物、間歩、発掘調査という学際的な調査研究成果の一端を紹介しています。併せて石見銀山の地質学的な背景から鉱脈や坑道の分布などを映像、模型等で解説しています。

平成21年7月2日からは、展示室の一画で、寄贈を受けた「都市鉱山オブジェ（および解説パネル4点）」コーナーを設け、廃棄される電化製品などから希少な金属を回収・再利用している状況の展示解説を開始しました（常設展示）。

第4展示室「未来に引き続く石見銀山遺跡とその文化的景観」

「鉱山跡と鉱山町、街道、港と港町の総体」という石見銀山の土地利用＝文化的景観を模型、映像、パネルや歴史年表で紹介しています。

また、石見銀山ゆかりの写真展として、関係者の寄稿により完成した「別冊太陽 - 石見銀山世界史に刻まれた産業遺跡 -」のために撮影された北田英治氏の写真により石見銀山の様々な情景を紹介しました（不定期開催）。



▲都市鉱山オブジェ



▲石見銀山百景

Ⅱ. 管理運営業務の実施状況

平成21年度の概観

概観

世界遺産登録となった平成19年の夏から20年秋にかけて、世界遺産登録という宣伝効果で予想をはるかに超え、年間100万人近くとなる多数の来訪者が訪れました。マイカーによる来訪者は、まず世界遺産センターから路線バスに乗り、遺跡や町並み等の現地へ行くことになったため、遺跡や町並みから戻ってセンターへ入館する方が多い傾向が続きました。

一方、大森地区と銀山地区内において導入した「歩く観光」スタイルは、平成20年10月の銀山地区内を運行していた路線バスの路線変更（銀山公園から龍源寺間歩方面の路線を世界遺産センター方面に変更）に伴い、平成21年度以降確実に浸透し、マイカー、観光バス、公共交通等の来訪手段の別を問わず、遺跡と町並みは、歩きとレンタサイクル等による観光となりました。

その中で、平成20年10月のフルオープンに伴い展示室を公開（有料）し、初めての来訪者に対して、現地見学の事前学習の場として、まずセンターへ来館し「平和と人権の尊重」をめざすユネスコ世界遺産であることなどを予習していただけるような誘導に努めました。並行して、丸1日の観光見学でも石見銀山の全体像を体感することは実質不可能であるため、何度も石見銀山を訪れていただけるような遺跡全体の概要説明を行いました。温泉津や仁摩の街道や港町への誘導についても同様で、リピーターを増やす工夫を現在も行っていきます。

平成21年度は、フルオープン後、実質的に通年で管理運営を行った初年度となりました。

人権・同和問題について随時センター職員をはじめ石見銀山関連施設やガイドの会職員の研修を行っています。そして、石見銀山の全体像をよりわかりやすく具体的に理解していただくため、発掘調査を中心とした調査研究成果のタイムリーなお知らせ、市県の専門職による夜学（夜間の講座）と外部研究者を招いた公開講座（日中の講座）の定例開催、銀山の製錬工程などの体験メニューの開発とイベントを開催しました。また、ホームページを積極的に利用し、これらのイベントの開催案内や募集、実施報告をお知らせしました。

また、7月には世界遺産登録から2周年を迎え、11月以降は、来訪者数に見る登録効果の落ち着きが顕著となってきました。

平成21年度入館者の状況等

総入館者数=175,278人（先行オープンからの累計=475,634人、フルオープンからの累計=240,260人）

展示室観覧者数=69,582人（フルオープンからの累計=95,937人）

展示室観覧料収入額=18,021,300円

利用状況は次のとおりです。

※平成21年4月25日から電子マネー「石見銀山WAON（下記参照）」サービスイン

【入館者数・観覧者数】

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者	12,868	31,573	12,146	15,107	29,471	21,088	14,586	14,214	5,875	3,613	4,043	10,694	175,278
展示室観覧者	5,409	9,332	5,447	5,548	10,803	7,333	6,390	6,394	3,669	2,119	2,169	4,969	69,582
有料観覧者	4,978	8,721	4,959	4,796	10,150	6,826	6,006	5,915	3,541	1,973	2,021	4,384	64,270
一般	4,305	6,584	3,792	3,904	8,841	5,436	4,397	4,246	2,645	1,659	1,718	3,632	51,159
大人	4,109	6,223	3,738	3,642	7,552	5,176	4,306	4,155	2,524	1,562	1,680	3,394	48,061
小中学生	196	361	54	262	1,289	260	91	91	121	97	38	238	3,098
団体	331	636	738	349	239	527	1,189	1,239	589	69	176	236	6,318
大人	331	636	736	172	213	515	1,187	1,232	588	69	176	236	6,091
小中学生	0	0	2	177	26	12	2	7	1	0	0	0	227
その他割引利用者	342	1,501	429	543	1,070	863	420	430	307	245	127	516	6,793
大人	332	1,392	421	487	877	803	399	412	286	213	118	438	6,178
小中学生	10	109	8	56	193	60	21	18	21	32	9	78	615
外国人の展示室観覧者数*1	20	24	9	13	24	16	10	45	61	13	14	29	278
無料観覧者	431	611	488	752	653	507	384	479	128	146	148	585	5,312
大人	395	407	385	710	568	468	321	360	128	139	112	562	4,555
小中学生	36	204	103	42	85	39	63	119	0	7	36	23	757

*1 平成21年4月1日から外国人の展示室観覧割引制度を開始

地域別	人数(人)
東ヨーロッパ	8
西ヨーロッパ	39
北アメリカ	81
中南米	6
オセアニア	21
東アジア	84
東南アジア	15
南アジア・中央アジア	4
中東・アフリカ	1
国籍不明	19
計	278

国別上位	人数(人)
米国	57
台湾	50
中国	29
カナダ	24
※国籍不明	19
オーストラリア	14
イギリス	13

注：12人以上の国を抽出

「石見銀山WAONとは」

大田市観光協会とイオン株式会社（千葉市）が業務提携し、イオンの電子マネー「WAON」に石見銀山遺跡をデザインした「石見銀山WAON」を発行。

世界遺産センターなどの有料施設等（8カ所）での支払い時に割引金額で利用できるとともに、その売上金の一部が「石見銀山基金」に寄付され石見銀山遺跡の保全に活用されます。

【観覧料収入】

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
展示室観覧料収入	1,428	2,438	1,419	1,319	2,752	1,928	1,704	1,671	993	556	583	1,229	18,021

主な入館団体

<平成21年度> (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

来館日	団 体	来館日	団 体
4月13日(月)	北国観光 ほか	10月28日(水)	大田市立久手小学校
4月23日(木)	山口県来迫寺仏教婦人会		島根県立出雲養護学校瀬摩分教室 ほか
4月30日(木)	大田市立北三瓶中学校	10月29日(木)	第32年全国土地改良大会
5月1日(金)	邑南町立瑞穂中学校	11月1日(日)	トップツアー ほか
5月19日(火)	広島県・城山北中学校	11月2日(月)	ひかり会 ほか
5月27日(水)	東京シティ旅行会	11月4日(水)	茨城県教育庁総務課 ほか
6月2日(火)	大田市立五十猛小学校	11月5日(木)	いきいきサロンうのまる会
6月4日(木)	大田市立大森小学校	11月6日(金)	日本旅行ジパングクラブ
6月12日(金)	島根県立瀬摩高校	11月7日(土)	福山調停協会 ほか
6月17日(水)	大田市立温泉津中学校	11月8日(日)	小野田簡保 ほか
6月25日(木)	大田市立仁摩小学校	11月10日(火)	川口信用金庫
	島根県立松江工業高校	11月11日(水)	島根県立出雲養護学校大田分教室 ほか
7月3日(金)	島根県立出雲養護学校	11月13日(金)	JTB北海道
7月7日(火)	大田市立北三瓶小学校	11月15日(日)	下松ろう協会 ほか
	大田市立志学小学校	11月16日(月)	才見アグリ旅行会 ほか
	大田市立池田小学校	11月17日(火)	大田市立朝波小学校
7月13日(月)	奈良県・智辯学園中学校	11月18日(水)	川口信用金庫
7月22日(水)	鳥取県妻木晩田遺跡事務所	11月19日(木)	福山地区保護司会
8月6日(木)	青森県教育庁文化財保護課	11月22日(日)	古志コミュニティセンター町づくり部 ほか
8月12日(水)	佐賀県教育庁	11月23日(月)	赤穂市自治会連合会
8月23日(日)	広島県・熊野第三中学校	11月25日(水)	群信教ふれあいの班 ほか
8月24日(月)	群馬県新風会	11月27日(金)	郵船クルーズあすかII ほか
8月28日(金)	全国JCのらくろ会	12月2日(水)	クラブツーリズム東京
9月4日(金)	信州花空間 ほか	12月3日(木)	湯坪民宿組合 ほか
9月7日(月)	飛梅会	12月4日(金)	クラブツーリズム浜松
9月9日(水)	大阪教区寺族婦人会連盟	12月5日(土)	下関市立水族館海響館ボランティア
9月10日(木)	ろうきん友の会札幌協議会	12月8日(火)	赤崎ミニトマト生産部 ほか
9月17日(木)	熱田長寿会	12月12日(土)	年冠国際旅行社(台湾) ほか
9月18日(金)	松江市立八雲中学校	12月16日(水)	NPO法人どんぐり ほか
9月24日(木)	井田やすらぎ会	12月19日(土)	島根県立大学
9月25日(金)	広島県三次市立君田中学校	12月21日(月)	国府地区シルバー歴史探訪会
9月26日(土)	松江市手をつなぐ会 ほか	12月28日(月)	クラブツーリズム浜松
9月27日(日)	四絡コミュニティスポーツ部	1月2日(土)	毎日新聞旅行
9月28日(月)	岩本親睦会	1月16日(土)	かしの木
9月30日(水)	美郷町立大和小学校	1月20日(水)	大田市立高山小学校
	J A石見銀山婦人部 ほか	1月22日(金)	中国電力
10月6日(火)	広島地区女性連合会 ほか	1月27日(水)	たてがみの郷グループホーム
10月7日(水)	大田市立久屋小学校 ほか	1月28日(木)	出雲市立大社小学校
10月11日(日)	安芸高田市教育委員会 ほか		栃木県日光市教育委員会
10月12日(月)	横浜市建築設計協同組合	2月2日(火)	大田市立川合小学校
10月14日(水)	徳善寺仏教婦人会 ほか	2月6日(土)	久喜・大林銀山保全委員会
10月15日(木)	小松川信用金庫	2月13日(土)	島根大学理工学部
10月16日(金)	大田市立富山小学校 ほか	2月20日(土)	ユーユーツーリスト
10月17日(土)	鶴の亀 ほか	2月24日(水)	青森県たばこ耕作組合
10月18日(日)	旗二自治会婦人部	3月3日(水)	美郷町立邑智中学校
10月19日(月)	身障者福祉協会三和支部	3月4日(木)	福屋組総代研修会
10月20日(火)	小郡市郷土史研究会 ほか	3月5日(金)	森友会
10月21日(水)	島根県立松江北高校通信科 ほか	3月12日(金)	高松コミュニティセンター
10月22日(木)	ケアハウス美川 ほか	3月13日(土)	本郷親和会
10月25日(日)	高峰自治会 ほか	3月21日(日)	甲和会
10月26日(月)	大和町老人クラブ	3月24日(水)	川下小学校同窓会
		3月30日(火)	浜田社会福祉協議会

誘客・広報事業

フルオープンから2年目を迎えた石見銀山世界遺産センターを、更に多くの方々に知っていただくために、さまざまな媒体、メディア等を利用して周知・宣伝に努めました。

主なPR活動の概要は次のとおりです。

1) 「浴衣でお出迎え」「山野草展」

世界遺産登録記念日の7月2日を中心に窓口スタッフ手作りの企画展を実施しました。



※ 「浴衣でお出迎え」

窓口スタッフが浴衣に着替えて来館者を迎えました。
梅雨のさなか、涼を感じると好評を得ました。

※ 「山野草展」

石見銀山周辺で見られる山野草を、簡単な解説ボードといっしょに展示しました。

館内各所に配置することで、来館者のなごみと興味を提供することができました。



2) 3館連携事業

鳥根県立古代出雲歴史博物館、鳥根県立三瓶自然館サヒメル及び石見銀山世界遺産センターの3館が世界遺産登録記念月の7月を中心に周知・誘客を図る目的でスタンプラリーなど合同イベントを企画しました。



▲合同イベント（ぎ・ん・ぶら町並み散策）

3) NHKラジオ公開生放送

世界遺産センターの玄関前に、NHKラジオ「ここはふるさと旅するラジオ 80ちゃん号」がやって来ました。公開生放送の収録で、旅するアナウンサーは島田アナ、鳥根県ふるさとサポーターは松江放送局の井上アナ、聴衆は当日の来館者や地元住民の約100名。世界遺産登録2年後の石見銀山遺跡のすがたや楽しみ方を、石見銀山ガイドの会の和上さん、勝部さん、熊谷家住宅の無川さんに紹介していただきました。

日時：平成21年12月8日（火）12:30～12:50

場所：石見銀山世界遺産センター



4) 「島根ふるさとフェア2010」

広島市で開催された「島根ふるさとフェア2010」に、石見銀山世界遺産センターとして初参加しました。ブースでは、世界遺産センターが担っている役割や機能など、遺跡の玄関口としての施設紹介を中心に行いました。

また、プラスチック板で作る「キーホルダー製作コーナー」を設け、お手軽体験イベントも同時に開催し、延べ600名の皆さんに体験してもらうなどPRに努めました。

日時：平成22年1月23日（土）10:00～17:00

1月24日（日）10:00～16:30

会場：広島県立総合体育館（広島市中区）



5) 「石見銀山謎解きウォークラリー」

パーク&ライドの拠点である世界遺産センターを起点に、大森地区の町並み施設への誘客に努める目的で、世界遺産センター、熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家、町並み交流センターの4施設に隠されたキーワードを探し当てる、「石見銀山謎解きウォークラリー」を開催しました。

日程：平成22年3月20日（土）

～4月4日（日）

賞品：正解者全員に「純銀粒とキーホルダーづくりキット」をプレゼント（さらに、抽選で賞品獲得）



6) 展示室観覧者5万人達成記念セレモニー

平成21年7月21日（火）午前10時、展示室観覧者が5万人に達しました。

5万人目の観覧者は、広島市の深田壮吾さん（小学5年生）。おじいさん、おばあさんと3人で、世界遺産石見銀山遺跡の現地へ行く前の予習目的で来館されたそうです。

記念のくす玉を割り、大田市の小川和邦教育長から大田市特産品詰め合わせなどの記念品を贈呈しました。



7) その他報道取材等一覧

番組制作に係る取材・撮影について積極的に協力し、世界遺産センター及び石見銀山遺跡全般のPRに努めました。

・番組取材

広島ホームテレビ、テレビ大阪、BS-TBS、ラジオ大阪 ほか

Ⅲ. 総合調査研究業務の概要

大田市と島根県では、世界遺産登録をめざして以来、10余年にわたって遺跡の総合調査を実施してきました。平成19年の登録後も、世界遺産の価値をより高めるために、これまでと同様の基礎的な（考古学的、歴史・民俗学的、自然科学的）調査研究を継続実施するとともに、平成20年度より新たに「テーマ別調査研究」を開始しています。

1. 考古学的調査研究

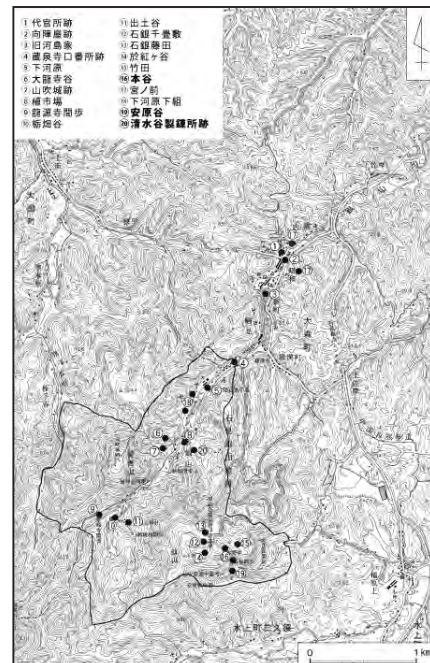
この調査研究では、実際に遺跡に残る遺構や遺物を、発掘調査を中心とする考古学的手法により解析することで、文献や伝承に残る事柄を検証・確認したり、記録にはない新たな事実を解明することを目的としています。

発掘調査の概要

石見銀山遺跡の発掘調査は、「遺構の存在、性格の確認」など遺跡の保護・保存、整備・活用の基礎資料を得ることや、「400年に及ぶ鉱山都市の実態解明」など学術的な調査を目的として行っています。

これまでは主に銀山柵内において、銀山最盛期の支配・生産・生活関連の調査を実施してきたほか、大森地区において遺構確認調査を行ってきました。また、平成18年度からは『史跡等総合整備活用推進事業』に伴い、「大久保間歩」、「清水谷製錬所跡」、「渡辺家住宅」などの発掘調査を実施しています。

平成21年度は引き続き、整備事業に伴う「清水谷製錬所跡」及び「渡辺家住宅」、学術的な調査である「本谷・安原谷地区」と大森地区内における確認調査を実施しました。調査体制は、調査員2名、調査補助員3名で、「石見銀山遺跡調査活用委員会」の指導を受けて実施しました。



▲石見銀山遺跡調査地点配置図

1) 清水谷製錬所跡

調査地点 銀山柵内の清水谷地区北端に位置し、東向き丘陵斜面の最下段

調査期間 平成21年7月27日～平成21年9月17日（現地調査）

調査目的 平成21年度に実施予定の排水路整備に伴う遺構の内容確認

概要

清水谷製錬所は、1895（明治28）年から1年半という短期間のみ操業していた近代製錬所で、その後本格的な再開発が行われなかったため、当時の石垣などが良好な状態で残っています。昨年度の調査では、石列状の建物礎石などの遺構やキューベル（骨灰皿）などの遺物が検出され、残っている当時の古写真に見られる操業当時の建物の痕跡を確認することが出来ました。



▲清水谷製錬所跡調査

今年度は、昨年度に整備を実施した見学路側溝の排水経路を確認することを主な目的として調査を実施しました。また、昨年度に多量に検出したキューベルが、分析場跡一帯の地表面に露出・散乱していることから、これらの採集も行いました。

調査は、分析場跡地の北西端部（A地点）と、その右隣で現在進入路として使用しているスロープ部（B地点）にそれぞれ調査区を設定して行いました。

A地点では、廃棄されたキューベルの上面に整地された面や廃棄されたキューベルの上に建物基礎を設置した状況が確認されました。このことは、キューベルが製錬所閉鎖後に廃棄されたものと考えられることから、分析場跡地で現在確認できる建物基礎の一部は、作業時の製錬所に伴うものではなくそれ以降の、つまり、製錬所閉鎖後に何らかの建物が建っていたということが分かりました。また、下層部からは石組みの暗渠が検出され、これは昨年度整備を実施した見学道側溝の延長部分ではないかと考えられます。

またB地点では、長い間製錬所跡の進入路として使用してきたスロープが、近年に造成されたものだと考えていましたが、製錬所閉鎖後の比較的早い段階に造成されたものであること、スロープの下にはさらに2面の整地面があり、下の整地面が作業当時の地表面であることなどが確認されました。また、2本の石組み側溝も検出され、底面がモルタルで補強されているなど、当時の技術を垣間見ることが出来ました。

製錬所跡におけるこの度の整備事業に伴う発掘調査は2ヵ年で終了しますが、昨年度調査では製錬所閉鎖直後のキューベルの廃棄状況などが、今年度調査では閉鎖後に何らかの施設が建設されていたことなどが明らかになりました。

2) 本谷・安原谷地区

調査地点 銀山柵内の東側に位置する本谷と、その本谷から西に伸びる安原谷

調査期間 平成21年9月24日～平成21年12月16日（現地調査）

調査目的 土地利用の状況確認、製錬の解明、銀山初期の実態解明

概要

本谷地区では、平成15年調査時のトレンチを拡張した調査区と、その道向かいの露頭掘り跡の下部に調査区を設定して調査を行いました。

トレンチを拡張した調査区では、17世紀前半の遺構面を確認し、炉跡5基や土坑などが検出されました。また調査区内では、合計9面の遺構面を確認し、4回の造成が確認できる道路状遺構も検出されました。露頭掘り跡の調査区では、調査した幅5mの内部の南壁は丁寧に加工されているのに対して、北側は綺麗な加工面が確認できないことから、採掘は南側から北側へ向けて岩盤を剥ぎ取るように行われたのではと推測されます。また、調査区の北側には採掘の途中で放棄された鉱脈のほか、南側では方形に石組みした基壇状の遺構も5基検出されました。

安原谷地区では、昨年度調査した3箇所の特レンチのうち谷手前と奥部の2箇所を拡張して調査区を設定しました。谷手前の調査区では、17世紀初期の遺構面が検出され、土間面と礎石建物、石組みの溝状遺構、



▲本谷地区調査区全景



▲安原谷地区調査

土坑、石列等の遺構が発見されました。石組みの溝状遺構は、岩盤から誘導された水が流れるように設置してあり、その水が円形の土坑に溜まるような仕組みになっていました。また、調査区東側で検出された石列遺構は、地形に沿って傾斜していることから道路に伴う石列だと考えられます。谷奥部の調査区では、3面の遺構面と2基の石垣を検出しました。

遺構面のうち1面は近代以降のもので、他の2面はいずれも黄色粘土を貼った土間面でしたが遺物が出土せず、その時期は確認できませんでした。また、石垣はいずれも谷に直行する形で検出されたため、土留めのための石垣ではないかと思われます。

今回の調査では、両地区から17世紀初期から前半期の遺構面が検出され、銀山最盛期の土地利用の実態の一端が確認できましたが、露頭掘り跡の完掘と道路遺構との関係解明、さらに下層に遺構が存在する可能性が高いことから、平成22年度も引き続き調査を実施することになりました。

3) 渡辺家住宅

調査地点 重伝建大森銀山地区の銀山地区北端に位置し、市道銀山線の東側
調査期間 平成21年7月29日～平成22年2月27日（現地調査期間内に断続的に実施）
調査目的 平成20年度から実施した建物の保存修理に伴う遺構の内容確認

概要

平成21年度は敷地内において、浄化槽の設置及び活用施設等の建設に伴う調査を断続的に実施しました。

このうち、見学者用便所の浄化槽設置予定地からは遺構が確認されたため、設置箇所を2回変更しました。敷地北東側の調査区では、6面の遺構面が検出され、第1遺構面では炉跡と思われる土坑を確認し、第5遺構面では礎石の可能性のある石が、第6面では石列及び杭列が検出されました。これらの遺構面は、出土した遺物から第1面が18世紀後半から19世紀頃、第6面が17世紀初頭と考えられ、第2面から第5面は17世紀から18世紀の範囲内に収まるものと思われます。



▲渡辺家調査

敷地東端の調査区では、表土下すぐに石列及び石垣を検出しました。検出した石列は傾斜しており、上面がスロープ状になって硬化していることから道状遺構と考えられます。【写真参照】

また、現在の建物が1811（文化8）年に建築されており、この道状遺構は建物建築時に構築されたと考えられることから19世紀初頭頃のもので、石垣は道状遺構の構築時に一部破壊されていることから、18世紀代のもものと思われます。

浄化槽の設置場所については、敷地東端の調査区のすぐ西側に新たな調査区を設定して遺構確認調査を行いました。遺構が検出されなかったため、最終的にこの場所に設置されることになりました。また、敷地活用施設の建設計画に伴い、主屋の裏で土蔵の南東側に当たる場所で2箇所の調査を実施しましたが、いずれも遺構が検出されませんでした。

なお、この場所には「咄々庵（とつとつあん）」が建築されました。

4) 重伝建大森銀山地区内

調査地点 旧杉谷家地点ほか6箇所
調査期間 年度内随時
調査目的 主に一般住宅用小型合併浄化槽埋設工事に伴う遺構の有無、内容確認

概要

平成21年度調査を実施した7箇所のうち、旧杉谷家地点のみ遺構が検出されました。調査地点は、銀山地区内の「上市場」に当たり、銀山初期段階の遺構や遺物が出土する地点として知られています。調査は主屋の裏で、銀山川沿いの敷地内に、遺構が検出されたため、3箇所の試掘を行いました。

第1トレンチからは、敷地の境界のためと思われる石垣状の遺構と、その下層では17世紀初頭と思われる遺構面が検出され、第2トレンチでは建物の基礎と考えられる石列や土坑、集石遺構が発見されました。また、第3トレンチでは明確な遺構が検出されなかったため、そこに便槽が設置されました。

上市場地区では、平成元年度以来の発掘調査となり、第1トレンチの第3遺構面が戦国末から江戸時代初期の遺構面である可能性があります。



▲旧杉谷家地点調査

石造物調査の概要

石造物調査は石見銀山遺跡の歴史的過程を実態に即してより詳細に明らかにし、鉱山遺跡としての特性を把握することを目的に実施しています。石造物には様々なものがありますが、現在は鉱山の盛衰が直接的に反映されると考えられる墓石を重点的に調査しています。

1) 平成21年度石造物調査指導会

実施日：平成21年5月26日（火）

場 所：石見銀山世界遺産センター、現地

指導者：田中義昭氏（島根県文化財保護審議会委員）

池上 悟氏（立正大学教授）

今岡利江氏（島根県民会館）

概 要

平成20年度の調査成果の確認及び平成21年度の調査内容の検討を行いました。平成21年度は、真言宗金剛院、温泉津地区にある古層の墓石、石見銀山遺跡周辺の室町時代の墓石の調査を実施することとしました。

2) 温泉津地区温泉津沖泊道周辺の石造物調査

実施日：平成21年6月15日（月）

場 所：現地

参加者：大田市・島根県教育委員会職員

概 要

温泉津町内で確認されている最古の紀年銘石塔を実測調査しました。調査成果としては、一石五輪塔に1574（天正2）年、組合せ宝篋印塔基礎に1579（天正7）年の紀年銘を確認しました。大森地区とほぼ同時期に福光石製の石塔が使用され始め、その形態は大森地区の古い形態と類似していることが判明しました。

3) 温泉津地区金剛院墓地の悉皆調査

実施日：平成21年8月17日（月）～19日（水）



▲天正2年銘の石塔

場 所：温泉津コミュニティーセンター、現地
指導者：田中義昭氏、池上悟氏、今岡利江氏
参加者：立正大学院生、大田市・島根県教育委員会職員
概 要

金剛院境内にある石造物を悉皆調査しました。調査成果としては、搬入された日引石（ひびきいし：福井県産）と考えられる石造物（14世紀末頃）、特定家系に関連する変形宝塔、大型組合せ宝篋印塔を調査しました。大型宝篋印塔の調査では寄進者の銘文から造立時期を推定することができました。廻船問屋が造立主体である変形宝塔の検討では、江戸時代後期以降に製作されたと判明し、有力商人による継続した造立であることが確認できました。また、最終日には石造物調査指導会を開催し、調査結果の確認及び補足調査の内容について検討を行いました。補足調査は10月までの間、数日行いました。



▲金剛院の調査風景

4) 温泉津町井田中通路の石造物調査

実施日：平成21年9月16日（水）
場 所：現地
参加者：島根県教育委員会職員
概 要

温泉津町井田中通路（なかしょうじ）に所在する組合せ五輪塔1基、道標1基、道標の可能性のある石造物1基の計3基の調査を実施しました。石見銀山遺跡では1570年代以降、福光石製の石塔が使用されていることが判明してきました。しかし、その意匠や「一石造」という特徴の由来は不明です。石見銀山遺跡周辺を含め、南北朝時代から戦国時代の石塔の流れを把握し、福光石製石塔を位置づける調査として実施しました。調査の結果、中通路の五輪塔は室町時代に造立され、福光石製石塔とは形態的に大きな違いがあることが分かりました。



▲中通路の石塔調査

5) 石見銀山遺跡周辺の石造物調査

実施日：平成21年12月8日（火）・12月10日（木）
場 所：現地
指導者：中村唯史氏（島根県立三瓶自然館）、今岡利江氏（島根県立八雲立つ風土記の丘）
参加者：島根県教育委員会職員
概 要

石見銀山遺跡周辺に存在する室町時代の石塔について時期や石材の種類について指導を受けました。温泉津町井田中通路の組合せ五輪塔はデイサイト製で、15世紀代の造立と考えられます。大田市久利町の組合せ宝篋印塔は粗い凝灰岩製で、15世紀を中心に14世紀末から16世紀の造立と考えられます。大田市大家町の石塔は15世紀代のデイサイト製、17世紀以降の福光石製石塔の2時期があることがわかりました。継続して石見銀山遺跡周辺の石造物の類例を調査する必要があります。

6) 平成21年度調査報告書作成

概要

悉皆調査した大田市温泉津町金剛院墓地、中正路の石造物、温泉津沖泊道周辺の石造物、平成11年度に調査した大田市大森町竹田地区、平成14年度に調査した同町本谷地区の調査成果を掲載しました。

海底調査の概要

石見銀山遺跡は鞆ヶ浦や沖泊など海域を国指定史跡内に含んでいます。その海底の状況は不明であり、一部で遺物が採集されている事実もあります。海底調査は海底の現状を把握し、今後の調査研究や活用に向けての資料を得る目的で実施しています。調査の方法はNPO法人アジア水中考古学研究所と金沢大学が行っている調査に協力する形で実施しました。

1) 温泉津湾周辺の分布調査

日時：平成21年9月2日（水）～4日（金）
場所：石見銀山世界遺産センター、現地
調査主体：NPO法人アジア水中考古学研究所・金沢大学
参加者：野上建紀氏（有田町歴史民俗資料館）
中野雄二氏（波佐見町教育委員会）
小川光彦氏（金沢大学大学院）
大田市・島根県教育委員会職員



▲鞆ヶ浦の海岸

概要

NPO法人アジア水中考古学研究所・金沢大学の合同チームにより沖泊周辺の海底遺跡の内容を学術的に解明する調査が計画されました。今回は海底を潜水調査する事前調査として、温泉津湾・沖泊周辺の海岸部にある船の係留施設や石切場跡を調査しました。また、以前に沖泊から採集された陶磁器の観察を行い19世紀の染付、陶器が中心で、18世紀の肥前染付も含まれていることが確認されました。

2) 温泉津湾海底調査

日時：平成21年10月9日（金）～12日（月）
場所：現地
調査主体：NPO法人アジア水中考古学研究所・金沢大学
参加者：野上建紀氏（有田町歴史民俗資料館）
小川光彦氏（金沢大学大学院）
山本祐司氏（水中カメラマン）
手塚希望氏（金沢大学大学院）
大田市・島根県教育委員会職員



▲海底調査風景（山本祐司氏撮影）

概要

温泉津湾及び沖泊の海底を潜水調査しました。海底地形の確認、近世肥前染付、煙管の存在を確認しました。沖泊は国史跡指定地内であるため、遺物の採集は行わず、位置の確認及び写真撮影が行われました。温泉津湾口では直方体の石材や近代瓦も確認されました。周辺に残る文献には沈船の記録も確認できます。

2. 歴史・民俗学的調査研究

世界遺産としての顕著な普遍的価値を高めるため、散逸の危機にある地元史料を主対象として文献調査を実施しています。その際、人権・同和問題との関わりを深めるため、地図・地名、人権・同和問題調査を通じて問題への理解促進と意識の向上をめざしました。調査成果の活用方法については、類例調査を行いつつ引き続き検討しています。

文献調査の概要

石見銀山の歴史と国内外におけるその意義を明らかにするため、石見銀山と石見銀を含む日本銀に関する文献・史料の所在や内容を学術的に調査しています。史料や文献の検索・閲覧・複写・写真撮影をし、必要に応じて目録作成や解説を行って保存・活用することとしています。

1) 文献調査指導会

実施日 平成21年5月30日（土）

場 所 鳥根県立古代出雲歴史博物館2階会議室（出雲市大社町）

出席者 文献調査員及び鳥根県教育委員会職員

概 要

平成21年度調査の計画について協議し、指導を受けました。

まず、過年度より調査中の熊谷家文書のほか、十分な調査が未実施である野澤家文書、安田家文書について作業の詳細を検討しました。しっかりした所在調査が必要であることや、調査対象を「地役人（銀山関係役人）」からもう少し広げ、町人や山師といった人々も含めるべきという指摘がありました。

平成21年度には史料集を刊行予定であり、幕末期に成立した「石州銀山治府要集」（山口県文書館所蔵）を翻刻し刊行することとなりました。

2) 古地図調査指導会

実施日 平成22年1月27日（水）～28日（木）

場 所 なかむら館・石見銀山資料館（大田市大森町）
石見銀山世界遺産センター

指導者 小野田一幸氏（神戸市立博物館学芸課主査）

出席者 文献調査員及び鳥根県教育委員会職員

概 要

なかむら館では中村俊郎氏のご厚意により、ヨーロッパ製古地図等を主に閲覧・調査しました。そのうち1520年代のタルタリア図は彩色良好で状態が良いものであり、貴重だと指摘がありました。

各地図における石見銀山の比定には地図の制作・歴史背景を充分考慮すべきこと、地図上の鉾山比定そのものが未開拓の研究分野であることも指摘を受け、大航海時代に石見銀山遺跡が果たした役割を解明する上での、古地図の重要性を改めて認識することとなりました。



▲古地図調査指導会

3) 文献調査研究会

実施日 平成22年3月23日（火）

場 所 スカイホテル大田8階会議室（大田市大田町）

出席者 文献調査員及び鳥根大学学生、大田市・鳥根県教育委員会職員

概要

文献調査員藤原雄高氏「鉱山集落の形成過程について」、世界遺産室目次謙一主任研究員「昆布山谷経塚出土銭貨とその背景」の2報告に対して活発な意見が出され、議論ができました。また、平成21年度の文献調査実施状況について総括報告を行いました。

4) 史料調査

実施日 平成21年7月24日(金)～平成22年3月24日(水)のうち
場所 各文書所蔵先(大田市大田町ほか)
出席者 文献調査員、島根大学学生、大田市・島根県教育委員会職員

概要

次に挙げた文書の写真撮影や目録作成を行いました。既存目録が既にあるものについては、照合作業も合わせて行っています。上野家、河島家、熊谷家、重田家、大雄寺、藤田家、安田家。山口県文書館では石見国幕府領・周防国・長門国の鉱山関連史料を閲覧し、適宜撮影しました。島根県立図書館では野澤家文書の謄写本、古代出雲歴史博物館では寛永年間と正保年間以降の石見国絵図をそれぞれ撮影しています。



▲安田家文書調査



▲重田家文書調査

5) 石見銀山資料館との共同調査

実施日 平成21年6月30日(火)～12月3日(木)のうち
場所 林家(邑智郡美郷町)・石見銀山資料館(大田市大森町)
出席者 文献調査員及び島根県教育委員会職員

概要

石見銀山資料館による林家文書・山内家文書の調査へ参加し、共同で整理・記録作業を行いました。林家文書は近世銀山街道沿いの村にかかる一大史料群であり、楮(こうぞ)・鉄関連史料を含む数千件の目録を作成中です。山内家文書は代官所役人山内家の史料として、新出分238点の目録が作成されました。書籍類・近世近代の書状類・近現代史料・地図等があります。

地図・地名・人権・同和問題調査の概要

石見銀山遺跡とその周辺は、近世石見国支配の幕府の中心地であり、銀山には多くの鉱山労働者の生活がありました。その支配機構は、幕府領(全国)に一貫するものと、銀山領独自のものがあつたようです。被差別身分の呼称もいくつかありました。けれども、それぞれ幕府から課せられた役務を果たし、治安維持のために大きく貢献しました。大きな役割を果たしながら賤視され、地名にすら賤称が存在しました。現在なお、その系譜をひく人々には人権上の問題があります。また誤った伝承も存在しました。

石見銀山に関わる調査研究に際しては、ユネスコの基本理念である平和と人権尊重の精神に則り行われるべきであることをふまえ、歴史的事実の解明が人権・同和問題の解決を見据えた取り組みとなるよう、人権・同和問題への理解促進と意識の向上を図る必要があります。そのため、外部有識者による研修会を開催するとともに、関連施設の展示見学を行いました。

1) 第1回人権・同和問題調査にかかる調査指導会

実施日 平成21年8月4日(火)

場 所 島根県第2分庁舎人権啓発推進センター研修室（松江市殿町）
講 師 松原高廣氏（石見銀山遺跡に関わる人権・同和問題協議会委員）
概 要

島根県下での同和問題の歴史について、講師には人権・同和問題の解決を見据えて取り組まれた啓発事業の成果に基づき平易にお話しいただきました。その中では、差別された人々が当時の社会で果たしていた固有かつ重要な役割を評価すべき、という指摘がありました。これは調査研究にあたってふまえるべき重要なことの一つであることが確認されました。

2) 第2回人権・同和問題調査にかかる調査指導会

実施日 平成22年2月26日（金）
場 所 島根県第3分庁舎 古代文化センター理化学分析室（松江市殿町）
講 師 松原高廣氏（石見銀山遺跡に関わる人権・同和問題協議会委員）
概 要

今回は江戸時代の石見国幕府領における部落の歴史について、講師から例を引いて分かりやすく解説していただきました。人権・同和問題の解決には、当時の社会で差別された人々が治安維持を担い、社会的に重要な役割を果たした事実の解明が重要だと述べられました。

3) 関連展示施設の見学

①見学日 平成21年9月10日（木）
場 所 久留米市人権啓発センター（福岡県久留米市）
②見学日 平成21年9月15日（火）
場 所 渋染一揆資料館（岡山県岡山市）、岡山市人権啓発推進センター（同）
③見学日 平成22年3月16日（火）
場 所 大阪人権博物館（大阪府大阪市）
見学者 島根県教育委員会職員
概 要

各施設毎の特色ある展示見学に加え、研修や状況視察・聴取を通じて、差別された人々の歴史について理解を深めることができました。また、人権・同和問題解決への取り組みに参考となる情報を得ることができました。

教育普及方法等調査の概要

1) 調査内容 先進事例の調査

実施日 平成22年3月27日（土）
場 所 飯田文化会館（長野県飯田市高羽町5-5-1）
参加者 島根県教育委員会職員
概 要

石見銀山遺跡の世界遺産としての価値を広く情報発信してゆくためには、体験を含めた教育普及活動や、講座・シンポジウム等の活動が必要です。今年度は世界自然遺産登録をめざしている南アルプス地域で開催された「世界遺産フォーラム南アルプス in 飯田」を聴講し、各地の鉱山遺跡での活動とは異なった観点から事例調査を行いました。同フォーラムでは保全管理の重要性が指摘されていました。こうした点をふまえたパンフレット等が多数製作され、価値とともに資産の大切さが広く周知されています。

3. 自然科学的調査研究

従前の科学調査など自然科学的な調査を一つの体系として整理発展させ、石見銀山遺跡の実態を解明し、より価値を高める調査を行います。この調査の目的は、鉱山技術の復元、遺跡の保存、環境保護等の解明です。これらの成果は講演会や鉱山技術の体験、現地ガイド、現地公開などで公表します。

考古資料分析調査の概要

1) 平成21年度考古資料分析調査指導会

実施日：平成21年7月18日（土）

場 所：石見銀山世界遺産センター

指導者：村上 隆氏（京都国立博物館学芸部保存修理指導室長）

参加者：大田市・島根県教育委員会職員

概 要

平成21年度の調査内容の検討を行いました。平成21年度は、清水谷製錬所跡の出土品の分析を実施することとしました。

2) 調査内容：清水谷製錬所跡の出土品分析

概 要

出土品の科学分析により石見銀山遺跡の採掘から製錬に至るまでの技術を解明する目的で調査を実施しています。今年度は昨年度に引き続いて清水谷製錬所跡の出土品について、科学分析を実施しました。清水谷製錬所跡は明治20年代の短期間操業であったため、当時の技術を解明するには絶好の遺跡です。

島根県内でも最古級のレンガについても科学分析を実施しました。

また、産地同定に必要な各地の製品を分析しました。



▲遺物の検討

生物調査の概要

調査内容：陸棲脊椎動物、昆虫類、植物などの生物調査

実施対象：石見銀山遺跡及びその周辺

実施方法：財団法人しまね自然と環境財団（島根県立三瓶自然館）に委託し実施

委託期間：平成21年5月26日（火）～平成22年3月31日（水）

概 要

平成20年度から代表的な自然環境を有する地域を対象に生物調査を実施し、年次変化や影響の有無を把握することとしています。平成21年度は継続的監視・観察を行いました。来訪者の増加などに伴い、生物環境への人為圧は高まっていますが、現在のところ大きな変化はありません。新たに希少動植物の存在が確認されており、継続した情報収集が必要です。

資産保全調査の概要

調査内容：石造物の保存対策の指導会

日 時：平成21年7月30日（木）～31日（金）

場 所：石見銀山世界遺産センター、現地

指導者：高妻洋成氏（独立行政法人奈良文化財研究所保存修復科学研究室長）

脇谷草一郎氏（同室研究員）

参加者：島根県埋蔵文化財調査センター職員、大田市・島根県教育委員会職員

概 要

石見銀山遺跡に多く存在する石造物の風化度、崩壊状況などを観察・測定し、対応策を検討するため、指導会を開催しました。今後、龍昌寺跡代官墓の劣化損傷状況の継続的確認、福光石の材質特性調査を実施することとしました。短期間に結果は出るものではなく、長期的な展望が必要であるとの指導を得ました。

4. テーマ別調査研究

平成20年度から、「石見銀山遺跡の歴史」と「鉱山の比較」を大きなテーマとし、2～3年周期の共同調査研究を始めました。この研究では、考古学、歴史学、歴史地理学、地質学、鉱山学などの外部研究者に石見銀山遺跡客員研究員として参加してもらい、年3回程度の共同検討会議を開催しながら進めています。

石見銀山遺跡客員研究員 名簿

研究テーマ	氏 名	所 属
最盛期石見 銀山の復元	井 上 雅 仁	島根県立三瓶自然館
	大 庭 康 時	福岡市教育委員会
	仁 木 宏	大阪市立大学大学院文学研究科
	藤 原 雄 高	石見銀山資料館
	山 村 亜 希	愛知県立大学文学部日本文化学科
	和 田 美 幸	松江市教育委員会
東アジア鉱 山比較研究	小 関 久 乃	(独)東京文化財研究所文化遺産国際協力センター
	中 西 哲 也	九州大学総合研究博物館
	仲 野 義 文	石見銀山資料館
	中 村 唯 史	島根県立三瓶自然館
	吉 原 道 夫	佐倉市立白井南中学校

石見銀山遺跡の調査研究の概要

石見銀山遺跡の顕著な普遍的価値と、その最盛期とは深い関わりを持つものです。本事業では、16世紀から17世紀初めの銀山最盛期にかかる資料を主対象とします。考古・歴史・歴史地理等の各分野からの調査・研究により、土地・人・物の状況解析を基軸として当該期の景観を復元的に明らかにすることをめざしています。

鉱山遺跡比較調査研究の概要

石見銀山遺跡はアジア初の産業遺産として世界遺産に登録されました。登録の際、ユネスコ世界遺産委員会から「石見銀山遺跡及び域内の他の鉱山遺跡との比較研究の実施」が要請されました。3カ年計

画では東アジア鉱山遺跡の所在確認を中心に行うこととしました。今年度は中国や日本国内の鉱山遺跡の情報を収集しました。

事業の実施概要

1) 平成21年度第1回石見銀山遺跡客員共同検討会の開催

①客員共同検討会現地調査

調査日：平成21年6月26日（金）

場 所：大田市大代町大家（大家の町並み及び一帯の諸寺社）

大田市温泉津町福光（不言城及び市集落周辺・楞嚴寺・浄光寺）

②客員共同検討会

実施日：平成21年6月25日（木）

場 所：石見銀山世界遺産センター

出席者：客員研究員等、大田市・島根県教育委員会職員

概 要

テーマごとに1本ずつと両テーマ共通の2本、合計4本の報告と議論を通じ、石見銀山遺跡および他鉱山の調査研究成果と計画を検討しました。各テーマ別分科会では、関連資料の収集・整理状況等について協議しました。

1. 客員共同検討会

1) 目次謙一「江戸後期の石見銀山の検討」

2) 守岡正司「生野銀山」

3) 椿 真治「銀山御料内の他鉱山（久喜大林鉱山・日原鉱山）踏査報告」

4) 中村唯史「石見銀山（都茂鉱山・笹ヶ谷鉱山・磯竹鉛山）踏査報告」

5) 小関久乃「文化遺産としての文化的景観」

2. テーマ別調査研究

1) 石見銀山遺跡に関する調査研究

事業報告書の内容案と各客員研究員の執筆分野等について議論しました。

2) 東アジアの鉱山遺跡に関する比較研究

今年度の現地調査や、事業報告書の内容案について協議しました。

2) 平成21年度第2回石見銀山遺跡客員共同検討会の開催

①客員共同検討会現地調査

調査日：平成21年11月13日（金）

場 所：大田市大森町

②客員共同検討会

実施日：平成21年11月12日（木）

場 所：石見銀山世界遺産センター

出席者：客員研究員等、大田市・島根県教育委員会職員

概 要

「最盛期石見銀山の景観復元」テーマにかかる3本の報告と議論により、石見銀山遺跡および他鉱山の調査研究成果と計画を検討しました。また、各テーマ別分科会では、関連資料の収集・整理状況等について協議しました。

1. 客員共同検討会

- 1) 目次謙一「石見銀山最盛期の寺院の様相」
 - 2) 守岡正司「発掘調査から見た石銀地区」
 - 3) 椿 真治「銀山柵内の間歩」
2. テーマ別調査研究

1) 石見銀山遺跡に関する調査研究

最盛期石見銀山の景観復元上の課題や、事業報告書での復元案の取り扱いなどについて議論しました。発掘調査成果へ期待する意見や、逆に発掘調査計画への提言を望む意見が出されたところです。

3) 石見銀山遺跡客員共同検討会「石見銀山遺跡・生野銀山共同研究」の開催

実施日：平成21年11月25日（水）～26日（木）

場 所：兵庫県朝来市生野銀山現地、メインホール生野

出席者：客員研究員等及び県市関係職員、朝来市教育委員会・大田市・島根県教育委員会職員

概 要

「東アジアの鉱山比較研究」では、石見銀山遺跡と関連が深い鉱山をもつ団体と協力して、鉱山の比較研究を実施しています。

兵庫県朝来市教育委員会にご協力いただき、同市所在の生野銀山と比較研究を行うこととし、第1回石見銀山・生野銀山共同研究会議を開催しました。現地視察後、両銀山の研究の現状把握や比較研究の項目等を検討しました。



また、共同研究の進め方等について意見を交わしたところです。出土遺物の検討や文献調査などを継続して行う予定です。

第1回 石見銀山遺跡・生野銀山共同研究会議

- 1) 守岡正司「比較研究の趣旨説明」
- 2) 目次謙一「石見銀山遺跡の調査研究」
- 3) 椿 真治「鉱山遺跡としての石見銀山遺跡の調査」
- 4) 仲野義文「石見銀山と生野銀山～文献を中心に～」
- 5) 中西哲也「石見銀山と生野銀山～伝世資料～」
- 6) 朝来市教育委員会「生野銀山の概要」

4) 平成21年度第3回石見銀山遺跡客員共同検討会の開催

①客員共同検討会現地調査

調査日：平成22年3月5日（金）～6日（土）

場 所：雲南市吉田町（鉄穴流し跡・鉄の歴史博物館・吉田の町・菅谷鉦・山内生活伝承館）
出雲市大社町（鷲銅山跡・鷲浦港・日御碕神社・宇龍港）

②客員共同検討会

実施日：平成22年3月6日（土）

場 所：島根県立古代出雲歴史博物館（出雲市大社町）

出席者：客員研究員等及び県市関係職員

概 要

「東アジアの鉱山比較研究」では生野銀山との比較調査、「最盛期石見銀山の景観復元」に関しては最盛期の時期区分と町構造変遷案の検討としてそれぞれの報告がなされ、事業報告書で



の成果報告のあり方や今後の調査研究課題の議論と検討を行いました。

5) テーマ別調査研究に伴う久喜・大林銀山の調査

実施日：第1回 平成21年4月10日（金）

第2回 平成21年4月20日（月）

第3回 平成21年5月12日（火）

場 所：久喜・大林銀山現地、邑南町郷土資料館（邑智郡邑南町）

指導者：吉川 正氏（邑南町文化財保護審議会副会長）

中村唯史氏（島根県立三瓶自然館）

参加者：邑南町教育委員会職員、島根県教育委員会職員

概 要

「東アジアの鉱山比較研究」に伴い石見地域にある鉱山の情報収集を行いました。久喜・大林銀山の現地調査及び近代の鉱山道具を調査しました。



▲久喜の近代製錬所跡のカラミ原

6) テーマ別調査研究に伴う第40回 1617会・勝瑞（徳島）例会への出席

実施日：平成21年5月9日（土）～10日（日）

場 所：徳島県板野郡藍住町地内・藍住町コミュニティセンター

参加者：島根県教育委員会職員

概 要

1617会は、16世紀以前と17世紀以後の都市的な場を対象として学際的に研究を深めてゆく研究会です。「最盛期石見銀山の景観復元」に伴い、戦国期阿波国の城下町勝瑞について、多分野にわたる調査・研究の方法や成果公開のあり方を参考事例としました。

7) テーマ別調査研究に伴う磯竹鉛山の調査

実施日：平成21年7月6日（月）

場 所：現地（大田市五十猛町）

指導者：中村唯史氏（島根県立三瓶自然館）

参加者：大田市・島根県教育委員会職員

概 要

鉛は銀精錬に必要な鉱物で、文献では18世紀には五十猛で採掘されていることが知られています。現地には比較的尾根に近い、地面の浅いところに2つの坑口が確認できます。周囲には平坦地や坑口が埋没した可能性がある窪地などもあります。

8) テーマ別調査研究に伴う笹ヶ谷鉱山の調査（堀家文書調査）

実施日：第1回 平成21年7月9日（木）～10日（金）

第2回 平成21年10月20日（火）～21日（水）

場 所：旧堀家住宅（鹿足郡津和野町）

指導者：第1回 仲野義文氏、藤原雄高氏、和田美幸氏

第2回 仲野義文氏、藤原雄高氏

参加者：島根県教育委員会職員

概 要

堀家は山師として津和野町内を初め、石見地域の鉱山を操業していたので、鉱山の経営、流通など数多くの文書が所蔵されています。銀山御料の動向は代官所の政策を反映しているため、堀家文

書を調査することは石見銀山遺跡の解明や他鉱山との比較においても大変有意義です。鉱山の経営関連の文書や村絵図などの写真撮影を行いました。

9) テーマ別調査研究に伴う石見銀山遺跡の遺構・遺物の調査

実施日：平成21年11月4日（水）～6日（金）

場 所：大田市内 石見銀山遺跡ほか

参加者：大庭康時客員研究員・大田市・島根県教育委員会職員

概 要

「最盛期石見銀山の景観復元」に伴い、発掘調査中の本谷・安原谷両地区や石銀地区三本露頭、鞆ヶ浦・仁摩・宅野・大浦の各港を視察しました。陶磁器や銭貨といった出土遺物にも検討を加えました。

10) テーマ別調査研究に伴う出土陶磁器調査

実施日：平成22年2月18日（木）～19日（金）

場 所：石見銀山世界遺産センター

指導者：佐伯純也氏（米子市教育文化事業団埋蔵文化財室）

西尾克己氏（島根県古代文化センター）

参加者：大田市・島根県教育委員会職員

概 要

「最盛期石見銀山の景観復元」に伴い各発掘調査地区の時期を把握するため出土陶磁器の産地、時期特定を行いました。仙ノ山周辺地区の出土品を中心に確認し、石銀藤田地区が他の地区と異なり18世紀まで存続していることが判明しました。また、出土品の整理・集計方法についても指導を受けました。

11) テーマ別研究に伴う間歩の確認調査

実施日：平成22年3月29日（月）

場 所：現地（大田市水上町）

指導者：中村唯史氏（島根県立三瓶自然館）

参加者：大田市・島根県教育委員会職員

概 要

「東アジアの鉱山比較研究」に伴い石見地域の鉱山の情報を収集しています。大田市水上町地内の間歩について現地確認及び地質学的調査を行いました。

IV. 遺跡の保全・管理業務の概要

1. 資産の経過観察（モニタリング）

概要

世界遺産の構成資産について、定期的かつ体系的な経過観察（モニタリング）を実施しています。「世界遺産条約の履行のための作業指針」・「定期報告説明書」に基づき、情報収集及び記録作成を毎年行い、蓄積した成果について6年毎に保存状況の評価としてまとめ、ユネスコ世界遺産センターを通じて世界遺産委員会へ提出することになっています。

定期報告『保全状態の測定にかかる指標』（抄）

調査区分	項	対象	目	具体的記載内容
管理体制	a) 保存管理の組織体制	資産	省略	推薦書記載事項に変更なし
	b) 防火管理体制	登録資産	省略	同上
	c) モニタリング体制	資産・バッファ	省略	同上
資産の管理状況	a) 保存状況	資産	環境問題における影響	銀山柵内における動植物調査を鳥根県立三瓶自然館に委託して実施。特に公開施設である大久保間歩内のコウモリの生態調査を継続して実施している。
			自然災害における影響	H20.11月からの落石対策工事がH21.6月に完了
			観光による影響	5月連休、8月中旬など世界遺産センター駐車場に入れない車が県道に縦列となり、周辺で一時渋滞が発生した。その他、大きな問題は発生していない。
			その他(経年劣化毀損等)	石造物の経年劣化状況の確認を行なう
	b) 現状変更及び保存に影響を及ぼす行為	資産	保護法第80条許可事例	
			重伝建地区保存条例第6条許可事項	【大森銀山地区】10件 【温泉津地区】1件
	c) 修理・整備記録	資産	市事業	【史跡】清水谷地区整備活用事業など8件 【史跡】羅漢寺保存修理事業1件
			民間(補助)事業	【重伝建・大森銀山地区】 修理3件、修景6件 【重伝建・温泉津地区】 修理6件、修景2件
	d) 防災施設の整備・修理等	資産		該当なし
e) 防災施設点検結果	資産		【史跡】 代官所跡・表門門長屋火災報知器→異常なし 【重伝建・大森銀山地区】 防災施設[貯水槽・消火栓等]→異常なし	
f) 環境保全	資産	維持管理・整備内容	銀山柵内の本谷地区を中心にパトロールを実施	
	必要施設	同上		
緩衝地帯の保存管理状況	a) 保存状況	バッファ	環境問題における影響	生物環境調査の実施状況(サヒメル委託)
			自然災害における影響	落石・水害などの事例(日時・場所・規模・対応)
			観光による影響	交通関係・ゴミ問題等
			その他(人的影響等)	具体例記載
	b) 現状変更等	バッファ	公共事業	協議→行為実施(H21.4.1~H22.3.31)10件
			民間事業	許可申請→行為実施(H21.4.1~H22.3.31)12件

保存技術の保存と継承	a) 現地開催の研修	資産		該当なし
	b) 文化財保護法による選定保存技術の選定	資産		該当なし
観光	a) 訪問者数	市内	入り込み客数	合計1,561千人（石見銀山560千人）
			外国人客数	4,171人（宿泊客数）
	b) 観光関連産業	市内	宿泊施設数	【大田】 7 【温泉津】 17 【三瓶】 6 【石見銀山】 1 【波根】 5 【仁摩】 8
			宿泊客数	【大田】 36,447人 【温泉津】 29,944人 【三瓶】 107,651人 【石見銀山】 773人 【波根】 3,108人 【仁摩】 704人 【合計】 178,587人
			小売業	店数、販売額 省略
			飲食業	事業所数
	c) 観光関連施設	バッファ内	利用者数・料金・時間	省略
		バッファ外	利用者数・料金・時間	〃
d) 観光情報の提供	市内	案内所・観光地図	〃	

2. 遺跡パトロール

平成21年度より専任の遺跡管理員を配置し、パトロール体制を強化しました。遺跡管理員は、定期的巡視のほか、遺産内における小範囲の除草、小修繕、簡易サイン敷設等の維持活動も行なっています。



▲沖泊街道パトロール



▲永久坑方面遊歩道除草作業



▲矢筈城登山道パトロール

V. 教育・普及業務の概要

1. 公開講座の開催

世界遺産センターでは、世界遺産・石見銀山遺跡について、より広く深い関心を持っていただくことを目的に、さまざまな講座を行っています。県内外の、石見銀山遺跡に関する研究者や、関係者をお招きして講演をいただいています。

平成21年度は、計4回の公開講座を開催しました。

今後も計画的に、様々な分野の内容となるよう計画していきます。

1) 第3回 「辻が花染丁字文道服再現品の制作」(平成21年度第1回)

日 時：平成21年6月1日(月) 13:30～15:10

場 所：オリエンテーション室

参加人数：50名

講 師：矢野俊昭氏(染技連文化財研究所所長)

※当初予定の小倉淳史氏(染技連代表取締役社長)の体調不良により交代

演 題：「辻が花染丁字文道服再現品の制作」

概 要

辻が花染めの歴史の解説や道服再現時の経緯等の説明を受け、有料展示室内で再現品や制作過程のテストピースを解説付きで観覧しました。約1年を要した制作時の苦労話や新たな発見など興味深い話を聞けたとともに、たくさんの質疑にもわかりやすい応答で対応いただきました。



2) 第4回 「代官 川崎平右衛門定孝—石見銀山に至るまで—」(平成21年度第2回)

日 時：平成21年7月4日(土) 13:30～15:45

場 所：オリエンテーション室

参加人数：50名

講 師：馬場治子氏(府中市郷土の森博物館学芸員)

演 題：「代官 川崎平右衛門定孝—石見銀山に至るまで—」

概 要

石見銀山領では59名の奉行・代官が赴任しています。武蔵国多摩郡生まれの川崎平右衛門定孝は31代目の代官(在任は1762-67)で、石見銀山を立て直し「中興の祖」と言われています。彼の素養を培った武蔵野地域の村役人層の優れた能力や、武蔵野新田や美濃国などでの業績など、石見銀山へ赴任するまでの足跡を解説していただきました。



3) 第5回 「地球科学から見た石見銀山とその周辺」(平成21年度3回目)

日 時：平成21年10月3日(土) 15:30～17:00

場 所：オリエンテーション室

参加人数：40名

講 師：赤坂正秀氏(鳥根大学総合理工学部教授)

演 題：「地球科学から見た石見銀山とその周辺」

概 要



石見銀山周辺の地質、鉱山の概要、福石鉱床と永久鉱床の形成について詳しく科学的見地から説明していただきました。

4) 第6回 「石見銀山調査研究最前線！ ～鉱脈と採掘～」(平成21年度4回目)

日時：平成22年3月7日(日) 9:30～12:20

場所：オリエンテーション室

参加人数：47名

概要

年度末の公開講座は、ひとつのテーマを設定した講演と、その年度に実施した調査研究成果を報告を行いました。今回は2部構成としましたが、参加者との熱のこもった質疑応答が行われました。

○第1部 報告会 9:30～10:50

テーマ：「石見銀山遺跡発掘調査」

「最盛期の石見銀山の復元について」

「銀山比較研究 生野銀山を中心として」

概要

市、県の専門職員が平成21年度に実施した調査研究成果などを報告しました。



▲第1部 報告会の様子

○第2部：講演会 11:00～12:20

講師：井澤英二氏(九州大学名誉教授)

演題：「世界的視野から見た石見銀山の鉱山技術」

概要

世界各地における金属製錬の端緒や岩質等による採掘方法の違い、採掘道具の時期別変遷について講演していただきました。



▲第2部 講演会の様子

2. 夜学の開催

世界遺産センターでは平成21年度からの取り組みとして、身近でわかりやすくを基本に、大田市及び島根県の専門職員等による、石見銀山遺跡に関するさまざまなミニ講演会を、夜学形式(夜間帯)で定期開催することとしました。

今年度は計11回の開催で、平日の夜にも関わらず毎回多くの参加者がありました。

場所：オリエンテーション室

時間：19:30～(冬期19:00～)

	月日	演題	講演者	参加者
1	5月25日(月)	世界遺産センターが目指すもの	西村 崇司 石見銀山世界遺産センター長	50名
2	6月8日(月)	鉱山遺跡の調査	守岡 正司 島根県文化財課専門研究員	58名
			目次 謙一 島根県文化財課主任研究員	

3	7月13日(月)	石見銀山遺跡の史跡整備事業について	遠藤 浩巳 大田市石見銀山課課長補佐	40名
4	8月10日(月)	考古学から見た石見銀山前史	椿 真治 島根県文化財課専門研究員	40名
5	9月14日(月)	世界遺産から人間の歴史を考える	若槻 真治 島根県文化財課世界遺産室長	40名
6	10月20日(火)	センターフルオープン1周年を迎えて	小野 康司 大田市石見銀山課課長	30名
7	11月16日(月)	石見銀山遺跡の保存管理	中田 健一 大田市石見銀山課世界遺産係長	40名
8	12月14日(月)	出土品から見た石見銀山	守岡 正司 島根県文化財課専門研究員	37名
9	1月12日(火)	平成21年度石見銀山遺跡本谷・安原谷地区発掘調査成果	長嶺 康典 大田市石見銀山課遺跡調査係長	37名
10	2月8日(月)	古文書にみる石見銀山とその周辺地域	中木紗友美 島根県文化財課嘱託員	43名
11	3月8日(月)	大森の町並み	林 泰州 大田市石見銀山課課長補佐	40名



1) 第1回：「世界遺産センターが目指すもの」

概要

世界遺産センターが担う役割や目指す方向性を述べ、来館者の現況も報告しました。参加者からはセンターに対しての意見や提案が続出し、石見銀山にかける思いが強く感じられました。

2) 第2回：「鉱山遺跡の調査」

概要

「石見銀山に関する調査研究史」(説明：目次)と「鉱山遺跡の調査」(説明：守岡)の二本立ての内容であり、石見銀山の調査研究の黎明期から現在に至るまでの経過を説明しました。

3) 第3回：「石見銀山遺跡の史跡整備事業について」

概要

大田市は、国史跡の石見銀山遺跡の保存活用を図るため平成18年度から整備に着手しています。その目的や箇所、実施時期・内容などについて説明を行い、一例として大久保間歩の整備報告がありました。

4) 第4回：「考古学から見た石見銀山前史」

概要

石見銀山周辺における寺、遺跡、古墳等の発掘調査からの視点による石見銀山前史について報告がありました。

5) 第5回：「世界遺産から人間の歴史を考える」

概要

人間の歴史の出発点・起点・変化を示す、アフリカ等の「最も歴史が古い」遺産を例に、人間の歴史の中で世界遺産を考えるという報告でした。また、世界遺産の中には「負の遺産」もあり、多様な価値と視点が必要であると説明がありました。

6) 第6回：「センターフルオープン1周年を迎えて」

概要

当日の10月20日はセンターのフルオープン記念日です。石見銀山遺跡の世界遺産登録前から登録後の今日に至るまでの、観光客の動向をはじめとする状況報告、調査研究を含む大田市としての取り組み、石見銀山協働会議、基金について報告がありました。

7) 第7回：「石見銀山遺跡の保存管理」

概要

世界遺産の価値や、その保存管理について、他の世界遺産を例に挙げることで石見銀山遺跡との共通点、相違点を分かりやすく解説しました。

8) 第8回：「出土品から見た石見銀山」

概要

発掘調査により出土する考古学的資料の中で陶磁器にスポットをあて、出土陶磁器の移り変わりや使われ方、他の遺跡との比較や考察もありました。講演後は、いくつかの出土品を手に取りながら観察を行い解説もしました。

9) 第9回：「平成21年度石見銀山遺跡本谷・安原谷地区発掘調査成果」

概要

平成21年度発掘調査の成果について、現場写真を中心に説明しました。終了後は遺物を実際に観察しながら質疑応答しました。

10) 第10回：「古文書にみる石見銀山とその周辺地域」

概要

調査の方法や、古文書から分かる大森代官所と周辺の村々との関係を分かりやすく報告しました。

11) 第11回：「大森の町並み」

概要

大田市には、大森銀山（S62年選定）、温泉津（H16年同）の2つの国選定の町並み保存地区があり、いずれも世界遺産の構成要素となっています。今回は、国内86の町並み保存地区（H22年3月現在）と上記2地区を概観するとともに、大森の町並み保存について、その歩みと保存修理時に得られた史料をもとに建造物から見た石見銀山の歴史を学びました。

3. 体験学習イベントの開催

世界遺産センターでは、体験を通して石見銀山遺跡の理解や関心を促進することを目的に体験学習等さまざまな参加型イベントを行うこととしています。

平成21年度は、昨年度に引き続き体験学習室（収蔵体験棟）において、「こなし、選鉱」といった製錬作業や、「灰吹法」の実演見学など石見銀山ゆかりの技術を体験することや、地元産福光石の加工を行いました。

また、要望の多かった石見銀山に関する古文書講座の開催するなど、屋内型体験イベントの充実を図りました。あわせて、遺跡内のさまざまな整備事業の成果の説明を兼ねた仙ノ山ウォークを開催するなど、野外型イベントも実施しました。

1) 仙ノ山ウォーク

日時：平成21年5月30日（土）9:10～12:00

参加人数：39名

コース

世界遺産センター（9:10発）⇒仙ノ山展望台（9:50）⇒清水口（10:20）⇒清水寺跡・選鉱場跡・蔵之丞坑（11:30）⇒銀山公園（12:00着解散）

概要

時折小雨の降る寒い一日でしたが、市内外からの参加者を迎え実施しました。

ウォークのコースは大田市が平成20年度から平成21年度の2カ年度で仙ノ山清水口番所跡から清水谷製錬所跡を結ぶコースの見学道です。

平成20年度に整備した仙ノ山展望台や、清水口番所跡から清水寺跡、選鉱場跡と清水谷製錬所跡を結んだトロッコ道を見学道として整備する計画などの解説と説明は、大田市石見銀山課の遠藤課長補佐が担当し、コース内いたるところで参加者からの質問に答えるかたちで、ゆっくりと3時間をかけてのウォーキングとなりました。



2) 銀山の製錬作業を体験しよう

日 時：平成21年7月11日（土）10:00～12:00

参加人数：18名

場 所：体験学習室

概 要

銀山の製錬作業のうち、鉱石を細かく砕く作業（こなし）、銀をゆり盆で抽出する作業（ゆりわけ）にチャレンジしていただきました。体験者からは、「思ったより難しい。こなし作業全般に女性が活躍したというのが分かる気がする」などの声が聞かれました。

そして、石見銀山の銀産出量を飛躍的に高めた「灰吹法」の実演見学では、スタッフによる説明を聞きながら、灰吹銀の出来あがる工程を見入っていました。



3) 福光石をほってみよう

日 時：平成21年7月26日（日）9:30～12:00

参加人数：10名

場 所：体験学習室

講 師：坪内正史氏（温泉津町出身：安来市在住）

概 要

福光石とは地元大田市の温泉津町福光で産出される凝灰岩です。石見銀山では墓石や石仏などに古くから利用されています。この体験は福光石をノミと金槌だけで彫りすすみレリーフを作るものです。

約30センチ四方、厚さ約5センチの石板にカブトムシ、お地蔵さまなど、自分で彫ってみたい題材を下書きし、ノミと金槌を使って丁寧にゆっくりと彫り進んでいきました。



4) 「こもんじょ」を読んでみよう

要望の多かった石見銀山に関する古文書を読み解く講座を、初級、中級にコースを分けて実施しました。

第1回目よりも第2回目の参加者が多く、また、今後の継続的な定期開催を望む声も多く、平成22年度以降は月例開催を視野に入れることとしました。

○第1回目

日 時：平成21年12月23日（水・祝）

参加人数：初級コース20名（講師：目次謙一）

中級コース3名（講師：中木紗友美）

概 要

初級コースは、古文書の概論とふれ合う楽しさを学び、「銀山旧記」の銀山発見の場面を題材として読み下しを行いました。

中級コースは、題材をより実践的に読み下すとともに、その文書の歴史的背景や経緯も解説しました。

○第2回目



▲初級コースの様子

日 時：平成22年2月20日（土）

参加人数：初級コース30名（講師：目次謙一）

中級コース7名（講師：中木紗友美）

概 要

初級コースは、前回の題材「銀山旧記」の続きを読
んでいきました。銀山の争奪、灰吹の始まりのくだり
です。

中級コースは、幕末、代官所から石見銀山領内の海
辺村々へ出された通達を題材としました。幕末にかけ
て増加してきた異国船の渡来をとおして、日本と諸外
国の情勢についても解説しました。



▲中級コースの様子

5) 発掘調査現地見学会（積雪により中止）

平成21年12月19日（土）に本谷・安原谷地区の発掘調査現地見学会を実施する予定としていた
が、降雪により中止しました。その後も、寒波の影響で実施の目途が立たず、平成22年1月12日（月）
の夜学で、写真や出土遺物を使用して実施した発掘調査の概要を説明することとしました。

4. 情報コーナー展示の実施

世界遺産センターの情報コーナーにおいて、石見銀山遺跡について、より深い関心を持っていただ
くとともに、遺跡への理解につながる様々な企画展示を行っています。

平成21年度は、石見銀山遺跡での発掘調査がどのように行われているかなど成果速報展を開催しま
した。

1) 「発見！地下に眠る大森の町 ～発掘調査の成果から～」

期 間：平成21年9月12日～平成22年3月5日

概 要

この企画展示は、日頃現場を見るのが難しい、町並
みでの工事ともなう発掘調査を中心として、発掘現場
の様相や成果を紹介したものです。町並みでの発掘調査
は昭和58年度から随時行われていましたが、その成果に
ついて一般公開する機会は十分ではありませんでした。

今回の展示では、その中でも大きな成果のあった宮ノ
前地区、城上神社前、熊谷家住宅などで行った発掘調査
時の写真やその成果説明パネルを展示しました。



▲「発見！地下に眠る大森の町」
発掘調査成果速報展

2) 「石見銀山遺跡発掘調査速報展 ～平成21年度調査／本谷・安原谷地区から～」

期 間：平成22年3月6日～4月23日

概 要

平成21年度に調査を行った本谷・安原谷地区での発掘調査成果を速報しました。

今年度は、本間歩～石銀地区間（本谷地区）の露頭掘りの調査と、平成19年度からの安原谷地区
の継続調査を行っており、前者では岩盤の試掘跡、後者では選鉱関連の可能性のある岩盤の加工跡

が見つかっています。

また、今回の展示ではこれらの遺構の紹介とあわせ、岩盤と鉱脈の関係から、仙ノ山の鉱脈予想図の紹介をしました。

このほか、この調査における遺物の傾向から、本谷の出土遺物から見える往時の人々の生活様相や、安原谷の出土陶磁器の傾向が銀山全体と符合しているなど、各地区の特徴もあわせて説明しました。

Ⅵ. 石見銀山遺跡関連事業の概要

1. 史跡整備事業

平成21年度は、文化庁国庫補助事業として「史跡等総合整備活用推進事業」と「史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業」を実施しました。

「史跡等総合整備活用推進事業」では、前年度から引き続き清水谷地区の環境整備工事として、石垣・石段などの保存修理や丸太階段・木橋設置などの史跡見学道整備をおこないました。さらに、整備工事を行った清水谷地区をはじめとして、本谷地区、矢筈城跡地区などの各地区では、史跡地内の見学ルートをわかりやすくするための道標や史跡の説明板を設置しました。

史跡地内の建造物では、1811（文化8）年建築の銀山附地役人の居宅であった「渡辺家住宅」の公開活用に向けた保存修理工事を行いました。

また、平成21年7月の集中豪雨によって被害を受けた山吹城跡見学道や、銀山街道温泉津沖泊道について、路面の流出・崩落した箇所への保存修理工事を行い、安全に歩行・見学ができるように復旧しました。

「史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業」としては、平成18年度から継続して実施している羅漢寺五百羅漢の保存修理工事が完了しました。また、平成21年7月の集中豪雨災害により一部崩落した清水寺裏山の斜面について、法枠工による崩落防止工事を行いました。

これらの整備事業は、「石見銀山遺跡整備検討委員会」の指導に基づいて実施しており、平成21年度は2回の委員会を開催しました。

また、史跡の保存管理及び整備事業実施に必要な「史跡等買上げ事業（土地公有化）」を並行して進めており、平成21年度は柑子谷地区と龍源寺間歩坑口前の土地について買上げ事業を行いました。

石見銀山遺跡整備検討委員会 委員名簿

	氏名	住所	区分	任期	備考
1	田中哲雄	京都府	学識経験者	H20. 9.15～H22. 9.14	委員長
2	大橋泰夫	松江市	学識経験者	同上	副委員長
3	村上隆	京都府	学識経験者	同上	
4	村田信夫	滋賀県	学識経験者	同上	
5	横田修一郎	松江市	学識経験者	同上	
6	小林准士	松江市	学識経験者	同上	
7	井上雅仁	大田町	学識経験者	H20.11.20～H22. 9.14	
8	山下幸弘	大森町	地元代表者	H20. 9.15～H22. 9.14	
9	田中裕子	仁摩町	地元代表者	同上	
10	中村仁美	大森町	地元代表者	同上	
11	太田洋子	三瓶町	地元代表者	同上	

平成21年度事業一覧表

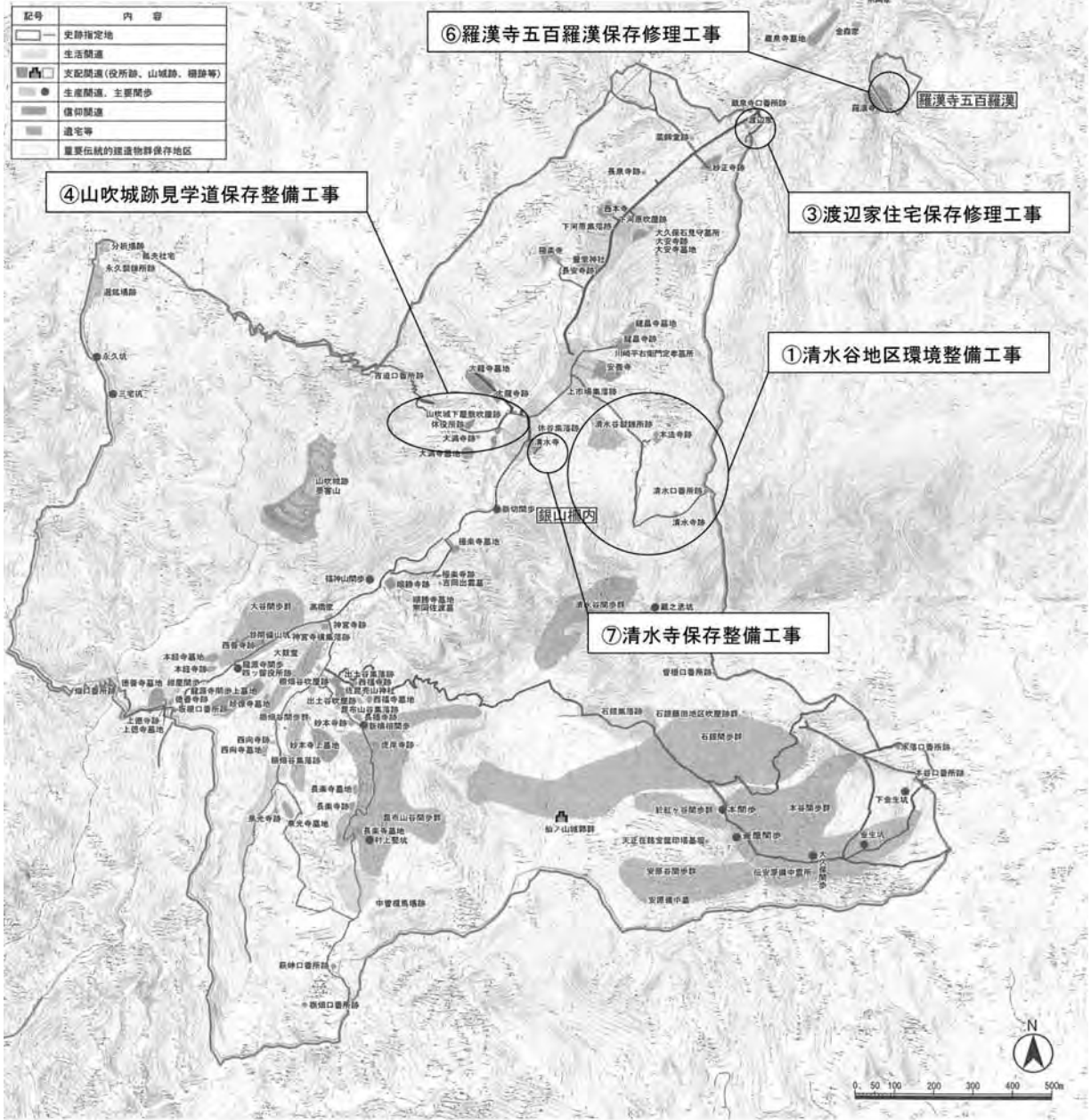
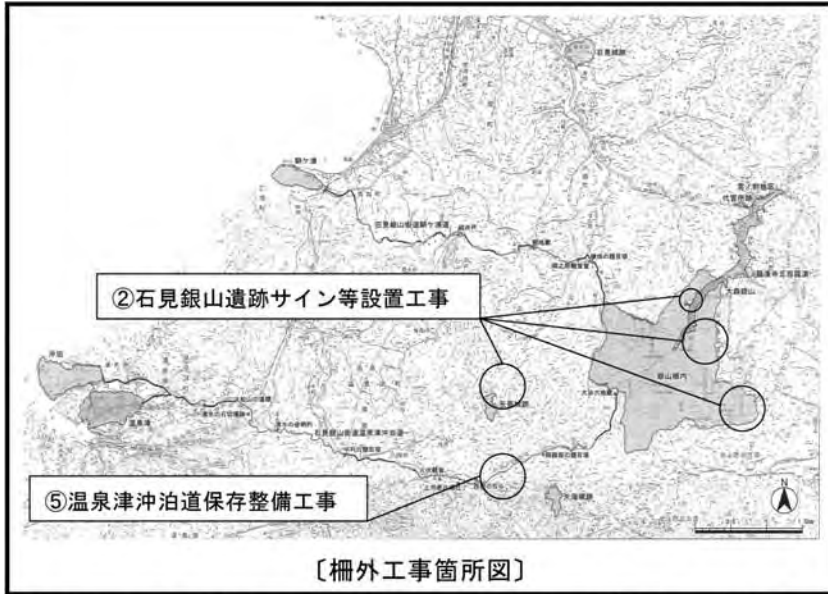
○史跡等総合整備活用推進事業

区分	番号	工事名・委託名	概要
工事	①	清水谷地区環境整備工事	選鉱場跡の石垣清掃や竹チップ舗装、製錬所跡の水路整備、両施設間の見学道整備（石垣修理・丸太階段・木橋）などを実施
	②	石見銀山遺跡サイン等設置工事	清水谷地区、本谷地区、下河原・休谷地区、矢筈城跡地区の各地区に誘導及び説明サインを設置
	③	渡辺家住宅保存修理工事	史跡地内の歴史的建造物である渡辺家住宅の保存修理に必要な仮設物設置及び組立工事を実施
	④	山吹城跡見学道保存整備工事	豪雨の被害を受けた見学道整備（堆積土砂のスキ取り・横断溝設置・丸太階段新設及び移設・木橋設置）を実施
	⑤	温泉津沖泊道保存整備工事	豪雨の被害を受けた街道整備（崩落箇所石積み修理）を実施
委託	A	石見銀山遺跡見学道保存整備事業 測量業務委託	④及び⑤の設計対象地の地形測量
	B	石見銀山遺跡整備活用事業 設計監理業務委託	③を除く各整備工事の設計及び施工監理

○史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業

区分	番号	工事名・委託名	概要
工事	⑥	羅漢寺五百羅漢保存修理工事	石窟3窟のうち、右窟屋根瓦、中央窟御室屋根、左右両窟の木製扉について保存修理工事を実施
	⑦	清水寺保存整備工事	豪雨の被害を受けた後背部法面について、吹付法枠による法面保護や排水路敷設等の整備を実施
委託	C	清水寺保存整備工事 測量設計業務委託	⑦の設計対象地の地形測量及び設計

※史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業で実施した各工事等については、それぞれの施設の所有者が事業主体となって実施しました。



2. 重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

平成21年度は、大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導を得ながら、大森銀山地区内では2件の修理、3件の修景を行いました。また、温泉津地区では6件の修理、1件の修景を行いました。

大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員名簿

	氏名	住所	区分	任期	備考
1	小泉和子	東京都	学識経験者	H20. 7. 1～H22. 6.30	
2	斎藤英俊	京都府	学識経験者	同上	会長
3	村田信夫	滋賀県	学識経験者	同上	
4	平本映子	松江市	学識経験者	同上	
5	卜部吉博	松江市	関係行政機関	同上	
6	多田房明	仁摩町	学識経験者	同上	
7	吉岡寛	大森町	地元代表者	同上	
8	河村政経	大森町	地元代表者	同上	
9	山崎光造	温泉津町	地元代表者	同上	
10	河原秀之	温泉津町	地元代表者	H20.12. 1～H22.11.30	副会長

大森銀山地区

①西本寺土塀 GiW15（社寺建築物No.21）、土塀（延長16.43m）

西本寺は、銀山地区の市道銀山線の西側に位置します。この土塀は庫裡の前に配置されている庭園の背後の境内地境に設けられており、大森銀山地区では他に例を見ない版築の土塀です。

修理前は棟の一部から雨水の浸入があり、壁は剥落及び崩落している箇所がありました。

今回の修理は主に屋根替えと壁体の全面的な修理を行いました。



②田中家主屋 KaN4（建築物No.241）、木造平屋建棧瓦葺（延面積66.95㎡）

田中家は、上佐摩下地区の市道大森線南側に位置します。この主屋は前面に庭が設けられており、大森銀山地区の民家では他に例を見ない屋敷配置です。建築年代は昭和時代初期と推測されます。

修理前は雨水の侵入により構造材（特に足回り）等に著しい傷みが発生していて、応急的に瓦葺からトタン葺へと変更していました。

今回の修理は主に屋根葺替えと構造材等の補強や補修、木製建具への変更を行いました。



③田中家塀 KaN4（非特定工作物）、板塀（延長10.50m）

上記②の田中家の塀は主屋に附属するコンクリートブロック造の塀で、建築年代は不明です。

今回の修景は主屋の修理に併せて既設の塀を一部再利用して木製の和塀に変更し、周囲の伝統的景観に調和する塀に修景しました。

④木原家主屋 SyW5（非特定建築物）

前面部：木造二階建葺瓦葺（延面積82.66㎡）

後背部：木造平屋建葺瓦葺（延面積85.83㎡）

木原家は、昭和三十九年の市道大森市街線の西側に位置します。建築年は前面部が平成元年で、後背部は昭和四十九年です。

修景前は、前面部が全体的に町並みの景観と調和させることが必要であり、後背部は屋根の著しい傷みによる雨水の浸入や瓦の崩落の可能性が高い状態でした。

今回の修景は前面部は主にアルミサッシから木製建具へ変更し、後背部は主に屋根葺替えを行い、周囲の伝統的景観に調和する外観に修景しました。



⑤渡辺家活用施設 GiE1（非特定建築物）、木造平屋建葺瓦葺（延面積135.83㎡）

渡辺家は、銀山地区の市道銀山線の東側に位置します。この施設は国史跡渡辺家住宅の後背に活用を目的として新築修景しました。

渡辺家住宅は、一般公開を基本とする活用を行うこととしていますが、加えて多様な活用を試行し、石見銀山遺跡における文化財の効果的な保存活用に資することを目的として設置しました。

なお、活用施設は、見学者の休憩・食事などの便益機能をもたせる整備を行い、渡辺家住宅の主屋、土蔵の活用を支援する施設です。



温泉津地区

①温光寺塀 湯町（YE-07）土塀（延長10.36m）

温光寺は、湯町の市道湯の街線の北側に位置します。この塀は、寺院境内と西側の隣接地の境界となる土塀で、延長は約5間（10.36m）です。建築年代は不明ですが、明治初期の温光寺の大修理に合わせ土塀も修理したと伝わっています。

今回の修理では、老朽化の進んだ奥側の約3間（6m）について、柱・鼻先桁・棟木・野地板を交換・接補し、欠損した瓦・屋根下地を復原、真壁の漆喰を下地から仕上げました。



②河原家主屋 中町（NN-09）木造二階建葺瓦葺（延面積117.50㎡）

河原家は、中町の市道湯の街線の北側に位置します。主屋は本二階建て真壁造りの伝統的な町屋型住宅です。

建築年代は不明ですが、本二階建ての構造が明治中後期に多いことから、同時代の建築と推察されます。

主屋一階は正面の建具や壁面を撤去して車庫に改変され、2階は建具をアルミサッシュに取り替えていましたが、当初の姿を失うほどの改変は受けていませんでした。

今回の修理では、壁の復旧・修理、屋根の葺き替え、木製建具への取替え・新設、構造補強等を行いました。



③山本家主屋 沖浦（OE-04）木造平屋建棧瓦葺（延面積61.06㎡）

山本家は、沖浦の市道沖ノ浦線の東側に位置します。主屋は平屋建て大壁造りの伝統的な町屋型住宅です。

建築年代は、和釘の痕跡があることから明治中期以前と推察されます。

正面の建具をアルミサッシュに取り替えています。建築当初に近い姿が残っていました。

今回の修理では、土台敷石の不陸調整、腐朽構造材の取替え、構造補強、土壁の復原、屋根の下地の修復・瓦の葺き替え、既存木製ガラス戸の補修・調整を行いました。



④本国家主屋 寺町（TE-10）木造二階建棧瓦葺（延面積58.92㎡）

本国家は、寺町の市道寺町線の東側に位置します。主屋は本二階建て真壁造りの伝統的な町屋型住宅です。

建築年代は、和釘の痕跡が見られることから明治中期以前と推察されます。

全体的に老朽化していましたが、建築当初の姿を比較的良く残していました。

今回の修理では、土台敷石の不陸調整、腐朽構造材の取替え、構造補強、土壁の復原、屋根の下地の修復・瓦の葺き替え、既存木製ガラス戸の補修・調整しました。



⑤金崎家主屋 上町（KS-12）木造総二階建瓦葺（延面積95.64㎡）

金崎家は、上町の市道湯の街線の南側に位置します。主屋は総二階建て真壁造りの伝統的な町屋型住宅です。

修理前の姿は、外壁をサイディングや波板で覆い、正面の建具をアルミサッシュに交換していましたが、当初の姿は失われていませんでした。

今回の修理では、主屋を半解体し、土台敷石の不陸調整、腐朽構造材の取替え、構造補強、土壁の復原、屋根の下地の修復・瓦の葺き替え、アルミサッシュを木製ガラス戸に交換しました。



⑥中島家塀 本町

中島家は、本町の市道湯の街線の東側に位置します。主屋の右側が間口5間奥行き5間の空き地（モルタル敷き）となっており、駐車場として利用されていました。

昭和40年代まではツシ2階の建物が建っていたことが、聞き取り調査によりわかりました。

今回の塀は、家並みが途切れた空間をつなげるように、奥行き一間の棧瓦葺の屋根を付け、壁は腰が下見板貼りの漆喰仕上げとして新築修景しました。



3. 情報発信事業

石見銀山遺跡世界遺産登録2周年記念事業

石見銀山遺跡が世界遺産に登録されて2周年の記念イベントとして、登録記念日でもある7月2日に世界遺産センターの展示協力者に対して「感謝状贈呈式」を行いました。

日時：平成21年7月2日（木）10:00～10:30

場所：石見銀山世界遺産センター・オリエンテーション室



▲感謝状贈呈式の様子

贈呈者の紹介【順不同敬称略】

①DOWAホールディングス株式会社（東京都千代田区）

*都市鉱山オブジェ等展示品の寄贈

使命を終えた携帯電話やパソコンなどから、貴金属を採取する様を鉱山に見立てたオブジェを製作され、関連資料を含め世界遺産センターでの展示公開（平成21年7月2日から第3展示室で常設展示）を目的として寄贈いただきました。

②清水寺（大田市大森町）

*辻が花染丁子文道服の再現協力

辻が花染丁子文道服（国・重要文化財）は、石見銀山の山師・安原伝兵衛が徳川家康から拝領し、清水寺が400年もの長きにわたり寺宝として保管して来られました。この、石見銀山の至宝といわれる染織品の再現制作にあたり、所有者として承諾いただきました。

③中村俊郎（大田市大森町）

*大森銀山図解等の史資料使用協力

個人所有の石見銀山の鉱山技術をうかがえる史料「大森銀山図解」に基づき、パネルと模型を製作する際、史料として使用することに承諾いただきました。さらに、銀貨幣他の史資料貸与の協力をいただきました。

④上野玄郎（千葉県柏市）

個人所有の石見銀山旧記等の史資料のレプリカを製作する際、史料として使用することに承諾いただきました。さらに、銀鉱石の資料貸与の協力をいただいています。

⑤山崎尚志（大田市仁摩町）

個人所有の銀貨幣の資料貸与の協力をいただきました。

第1回世界遺産フォーラム

平成21年10月31日（土）「世界遺産の保護と活用」をテーマに、「第1回世界遺産フォーラム『世界遺産－まもる・みる・いかす－』」が大田市民会館（大田市大田町）で開催され、約700人の方にお越しいただきました。

当日の午前中はパネルディスカッションを行い、世界遺産登録に伴う観光客の急増により遺産の破壊や住民生活に変化が生じたことなどを始め、各遺産における現状や課題、当該課題に対する取り組み等についての報告がありました。

午後からはフォーラムが開催され、ナスカの地上絵の保護活動を行う、エッセイストの楠田枝里子さんをゲストに迎えて、地上絵研究や保護への最前線について、基調講演をいただきました。



▲パネルディスカッションの様子

その後、パネルディスカッション・ポスターセッションを実施。パネルディスカッションでは「活用」という今回の趣旨を目的として、世界遺産をよりよいものとして未来へ継承していくため、遺産保護と観光のあるべき姿をテーマに、国内7カ所の遺産地域で保護活動に取り組む方々や観光関係者がパネリストとして意見交換を行いました。

会の最後に、国内の世界遺産14カ所の所在地の地方新聞社14社が連携して世界遺産に係る情報発信を行っていく「世界遺産ネットワーク」の設立趣旨の説明が行われました。

翌、11月1日（日）には、関連イベントとして「世界遺産石見銀山を歩く」を、創立10周年を迎えた石見銀山ガイドの会と連携して企画・実施しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、約170名に参加いただき、街道や町並み等の5つのコースを歩きました。



▲「世界遺産 石見銀山を歩く」

平成21年度写真・ポジ貸出実績

	貸出先	写真画像	所蔵者	掲載誌・使用目的
1	株式会社テレビマンユニオン	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	東京放送系『世界ふしぎ発見! マカオ篇』
2	社団法人日本ユネスコ協会連盟	釜屋間歩と岩盤加工遺構		日本ユネスコ協会連盟制作パネル
		温泉津町並み(長命館附近)		
		温泉津町並み(なまこ壁)		
3	プランニングケイ	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『るるぶ山陽山陰 '10』
		御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『るるぶ松江出雲石見銀山 '10』
4	株式会社ネクサス	石見銀山稼方絵巻	個人	『開運!なんでも鑑定団』
5	社団法人鳥根大田青年会議所	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	(社)日本青年会議所中国地区鳥根ブロック協議会 第35回鳥根ブロック会員大会記念パンフレット
6	トップツアー株式会社 中四国国内旅行センター	石見銀山全景(空撮)		『レストランプランナー中四国』
		龍源寺間歩(2枚)		
		大久保間歩		
7	中国電力株式会社 出雲営業所	大森町並み		中国電力社内報『エネルギー』7月号
8	株式会社山川出版社	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『歴史と地理 日本史の研究』225号
9	石見銀山大森郵便局	石見銀山稼方絵巻	個人	石見銀山オリジナルフレーム切手
		御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
10	株式会社イースト	石見銀山稼方絵巻	個人	全日空機内映像プログラム ANAトラベルナビゲーター
		御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
11	大田市長	御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	大田市重点要望書 表紙
12	株式会社天夢人	石見銀山鉞山図解	個人	『週刊 歴史のミステリー』82号
13	株式会社天夢人	大森町空撮写真		『週刊 歴史のミステリー』82号
14	株式会社浜島書店	石見銀山遠景		中学校歴史資料集『総合歴史』
		丁銀3種 ・御取納丁銀 ・文禄石州丁銀 ・御公用丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
15	日本銀行金融研究所貨幣博物館	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	貨幣博物館秋季企画展『海を越えた中世のお金』展示パネル・館内配布用リーフレット・冊子(ホームページ掲載も含む)
		オルテリウス「韃靼図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
		仙ノ山・大森町並み空撮		
		大久保間歩内部 露頭掘跡		
16	テレビ愛知グループ 株式会社 アイプロ	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	テレビ愛知『今すぐ行きたい!世界遺産 ぶらりおんな旅』
		石見銀山絵巻	個人	
17	小寺雅夫	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『石州の歴史と遺産』(自費出版)
		オルテリウス「韃靼図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
18	有限会社写人社	御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『マイデザイン』88号 特集「デザインの素材、金・銀・銅」のうち 仮題「16世紀、世界の銀の1/3を産出した石見銀山」
		オルテリウス「韃靼図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	
19	株式会社ゼンリン山陰 松江営業所	仙ノ山空撮		『ゼンリン住宅地図 飯石郡飯南町』
				『ゼンリン住宅地図 出雲市1』
				『ゼンリン住宅地図 簸川郡斐川町』
20	株式会社KAZU	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	日本テレビ『Newsリアルタイム』
21	大田市教育委員会 生涯学習課	石見銀山航空写真		大田市立図書館の新カードのデザイン
22	石見銀山農業協同組合	御取納丁銀		大森町農協直売店舗使用のお土産袋
23	有限会社プランニングスポット	オルテリウス「韃靼図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	(株)ナチュラルプラス会報誌『フレ』
24	社団法人日本電気協会新聞部 電気新聞	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	電気新聞 別刷付録『あのまちこのまち 石見』
		御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	

	貸出先	写真画像	所蔵者	掲載誌・使用目的
25	株式会社スタッフラビ	石見銀山絵巻 清水谷製錬所古写真	個人	フジテレビ『わかるテレビ』
26	株式会社パトリア	石見銀山絵巻 ドラード「日本図」 (松本賢一『南蛮紅毛日本地 図集成』より転載)	個人	B S - T B S 放送『解・鎖国論 世界、 そこにある江戸時代』
27	きむら農園	御取納丁銀		ジャムのパッケージ
28	社団法人中国地方総合研究センター	オルテリウス「鞆鞆図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『中国地域まるごと情報辞典2009年版－ 中国地域経済白書－』（仮題）
29	石見銀山ガイドの会	石見銀山全景（空撮） （「世界遺産石見銀山を歩く」 パンフレットより転載）		『仙ノ山－石見銀山ガイドの会10年の歩 み』
30	株式会社 J T B パブリッシング	御取納丁銀		『るるぶ山陽山陰 '10』
31	株式会社ガリバープロダクツ	大森町並み空撮		『プリズム』増刊号
32	寿久仁屋	御取納丁銀		石見銀山丁銀サブレパイ
33	大田商工会議所	石見銀山鉾山図解	個人	『御勘弁飯』広告チラシ及びHP
34	朝日新聞 大阪本社	ティセラ「日本図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	朝日新聞
35	株式会社アテナ	温泉津沖泊道空撮（2枚） 仙ノ山空撮（2枚） 仙ノ山と大森の町並空撮 大森町空撮 石見銀山空撮(温泉津方面より) 温泉津往還道 銀山街道 鞆ヶ浦道 矢滝城方面から仙ノ山 矢滝城方面から 全景 銀山街道 温泉津沖泊道(5枚)		県央県土事業概要パンフレット
36	株式会社ジェイ・エス・ピー	石見銀山 熊谷家住宅		新規旅行募集パンフレット制作
37	特定非営利活動法人世界遺産アカデミー	坑道内部		『はじめて学ぶ世界遺産100』
38	特定非営利活動法人世界遺産アカデミー	坑道内部		『世界遺産検定公式基礎ガイド2010年版 (2級対応)』
39	株式会社ブランデックス・インターメディア	オルテリウス「鞆鞆図」	鳥根県立古代出雲歴史博物館	読売新聞情報誌『リエール』3月号
40	株式会社北海道コミュニケーションズ	龍源寺間歩		J T B マイプラン山陰山陽・四国パンフ レット
41	株式会社帝国書院	御取納丁銀	鳥根県立古代出雲歴史博物館	『社会科 中学生の歴史－日本の歩みと 世界の動き－』（仮題）
42	株式会社ゼンリン山陰 松江営業所	仙ノ山空撮		『ゼンリン住宅地図 八東郡東出雲町』 『ゼンリン住宅地図 松江市1』 『ゼンリン住宅地図 松江市2』 『ゼンリン住宅地図 松江市3』 『ゼンリン住宅地図 松江市4』
43	国立大学鳥根大学附属図書館	石見輿地図 石見国六郡図	個人 個人	『鳥根の国絵図』（仮題）
44	株式会社ジェイコム 広島営業部	龍源寺間歩		当館、当観光地の誘客・販売促進等
45	株式会社ジェイ・エス・ピー	石見銀山 佐毘売山神社 熊谷家住宅		エース J T B の商品販促を目的として、 各種パンフや販促ツール、媒体類に掲載
46	広島県立歴史民俗資料館	石見銀山絵巻	個人	平成22年度春の特別企画展「頼杏坪とそ の時代」展示パネル

4. その他の事業

石見銀山遺跡調査活用委員会

平成21年7月17日（金）に、世界遺産センターで第3回石見銀山遺跡調査活用委員会が開催されました。会議前には清水谷地区など現地を視察し、落石対策や見学道整備の状況などについて意見をいただきました。会議には15名の委員全員が出席し、今後の調査研究などについて助言や意見をいただきました。

また、平成21年12月22日（火）には、12名の委員が出席し、鞆ヶ浦・沖泊・温泉津の視察を行った後に、温泉津コミュニティーセンターで第4回石見銀山遺跡調査活用委員会を開催しました。当日は、港湾集落の整備・活用などについて助言や意見をいただきました。

石見銀山遺跡調査活用委員会 委員名簿

氏名	職名	専門分野	備考
井上 雅仁	島根県立三瓶自然館 学芸グループリーダー	自然環境	
大橋 泰夫	島根大学法文学部 教授	考古学	
勝部 昭	元・島根県教育委員会教育次長	文化財行政	委員長職務代理者
黒田 乃生	筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授	文化的景観	
小林 准士	島根大学法文学部 准教授	近世思想史	
高安 克己	島根大学名誉教授	地質学	
田中 裕子	オフィスタナカ 代表	地元有識者	
中塩 弘	DOWAホールディングス株式会社 取締役	鉱業	
仲野 義文	石見銀山資料館 館長	近世史	
中村 俊郎	中村ブレイス株式会社 代表取締役社長	地元有識者	
西村 幸夫	東京大学先端科学技術研究センター 教授	都市計画	
林 秀司	島根県立大学総合政策学部 教授	人文地理	
原田洋一郎	東京都立産業技術高等専門学校 准教授	鉱山史	
町田 章	元・奈良文化財研究所所長	考古学	委員長
村上 隆	京都国立博物館学芸部 保存修理指導室長	歴史材料科学	

※任期：平成20年1月7日～平成23年1月6日（中塩委員は20年6月26日～）

石見銀山遺跡保存管理委員会

平成21年5月27日（水）に、世界遺産センターで第2回石見銀山遺跡保存管理委員会が開催されました。

この委員会は、石見銀山遺跡を適切に保存管理し、その価値を永く後世に伝えていくことを目的として、島根県と大田市が共同で設置しました。世界遺産登録推薦書の中でも、その設置を謳っていたものです。

委員会では、遺跡の保存管理に関連する諸事業の総合調整や遺跡の保存管理計画の進行管理等を行います。委員は、県の関係部局の次長6名及び市の関係部局の部長5名の11名で構成されています。第2回については、文化庁から世界文化遺産室長にもお越しいたごき、意見交換や保全管理計画などに対する助言をいただきました。

その後、委員長である県の福間教育次長の進行により議事に移り、石見銀山の現状、調査・活用事業についての状況報告などを各事項ごとに、県と市の担当者が説明を行いました。

次に、石見銀山遺跡の受け入れ対策や観光振興策、整備状況などについて、具体的な課題内容の説明がありました。

これらの報告を受けて、特に世界遺産エリアにおける来訪客の誘導、特に街道や仁摩・温泉津地区と大森地区を一体として見せる仕組みについて、多くの意見が交わされました。

今後は世界遺産エリアの自然・文化などの地域資源をどのようにPRしていくか、外国人観光客に対する受け入れ対策などをテーマとして検討を進めていきます。

石見銀山遺跡保存管理委員会 委員名簿

所 属	部 局	職	氏 名
島根県	地域振興部	次長	伊 藤 修 二
	環境生活部	次長	村 川 修
	農林水産部	次長（事務）	永 原 淳
	商工労働部	次長	楫 野 弘 和
	土木部	次長（事務）	布 野 典 男
	教育庁	教育次長（事務）	福 間 亮 平
大田市	総務部	部長	渡 邊 誠
	産業振興部	部長	和 田 和 夫
	建設部	部長	楫 智 男
	上下水道部	部長	大 野 晃
	教育委員会	教育部長	大 國 晴 雄

※第2回委員会開催時

石見銀山景観保全審議会

平成22年3月17日（水）に、大田市役所2階第1会議室で第1回石見銀山景観保全審議会が開催されました。

石見銀山景観保全審議会 委員名簿

氏 名	職業・所属団体（役職）	区 分	備 考
泉 充規	仁摩ブロック公民館長	地元有識者	
今田 善行	温泉津ブロック公民館長	地元有識者	
大屋 誠	松江工業高等専門学校准教授	学識経験者	
黒田 乃生	筑波大学准教授	学識経験者	
田中 裕子	オフィスタナカ代表	地元有識者	
田中要之祐	高山ブロック公民館長	地元有識者	
林 秀司	島根県立大学教授	学識経験者	副会長
福田 満幸	島根県広告美術協同組合理事	地元有識者	
藤岡 大拙	島根県立大学短期大学部名誉教授	学識経験者	会長
山本 豊	島根県県央県土整備事務所大田事業所所長	関係行政機関	
若槻 真治	島根県教育庁文化財課世界遺産室長	関係行政機関	
渡邊 元文	渡邊建築工房代表	地元有識者	

石見銀山協働会議

平成17年6月26日、世界遺産登録を目指す石見銀山遺跡を官民協働により保全・活用していくための方策を検討するため、公募による約200名の市民プランナーと島根県・大田市の関係課職員により石見銀山協働会議が組織されました。

平成17年度において、「全体会」を4回、「保全」「発信」「受入」「活用」の分科会がそれぞれ15～16回のワークショップを実施し、平成18年3月、今後の石見銀山における取り組みの方向性を示した「石見銀山行動計画」を策定しました。

平成18年度以降は、「石見銀山行動計画」に基づいた各種事業を実施し、平成21年度は下記の事業をしました。

1) 保存管理

①保全活動体制整備事業

平成21年6月28日（日）と9月27日（日）に第9回、第10回の「クリーン銀山」を実施しました。この事業は昨年度まで「石見銀山維持保全活動連絡会議」の主催事業として行っていましたが、今年度より世界遺産センターの主催事業として行っています。

第9回クリーン銀山

日 時：平成21年6月28日（日）8:20～10:10
場 所：世界遺産センター周辺、宮ノ前地区
参加者：121人

第10回クリーン銀山

日 時：平成21年9月27日（日）8:00～10:00
場 所：世界遺産センター周辺、銀山公園
参加者：37人



▲第10回クリーン銀山

②石見銀山ルール策定・普及事業

平成18年度に大森町自治会協議会と行政により「石見銀山ルール検討委員会」を設置しました。

平成20年度には、主に看板や商品陳列といった「大森町内における出店マナー」について検討し、平成21年3月7日（土）に開催された「大森町町民集会」で合意形成され、平成21年度からは大森町自治会協議会が出店マナーのマネジメント組織となり、穏やかさと賑わいの両立を図っています。

③石見銀山基金

「石見銀山行動計画」で提案された「保存管理基金」の設立に向けて、平成19年7月20日に「石見銀山協働基金設立準備委員会」を設置し、検討作業を行い、平成20年2月28日に「石見銀山基金募金委員会」が設立され、寄附の呼びかけ、受付を始めました。

理事会：6/1、幹事会：5/13・7/13、顧問会議：6/23

【積立額】

(単位：円)

区分	H19	H20	H21	合計
民間 (募金)	3,002,750 (件数：12)	37,823,229 (件数：466)	32,865,720 (件数：138)	73,691,699 (件数：616)
行政	5,997,250	26,677,771	35,344,000	68,019,021
大田市	5,997,250	25,176,771	16,433,000	47,607,021
島根県		1,501,000 (前年の民間1/2)	18,911,000 (前年の民間1/2)	20,412,000
合計	9,000,000	64,501,000	68,209,720	141,710,720

2) 情報発信**「第8回石見銀山協働会議」全体会の開催**

今後の石見銀山協働会議のあり方と石見銀山基金事業を検討するために「第8回石見銀山協働会議全体会」を開催しました。

日 時：平成21年11月9日（月）18:30～21:00

会 場：大田商工会議所

参加者：約40名



▲全体会の様子

3) 受入**緊急受入対策事業**

大森町地内の狭い町中での混雑を防ぐため、平成19年度から観光車両は大森の町並みから約2 km離れた石見銀山世界遺産センターに車を駐車し、路線バスにて大森町内に入る「パーク&ライド」システムを導入しました。

また、平成20年10月からは銀山地区内への路線バスが廃止（路線変更に伴うもの）されたことに伴い、完全に「歩く観光」にシフト替えしました。

このことによって「石見銀山パーク&ライド・ウォーク」の形態として確立しつつあります。

大久保間歩一般公開

平成20年度から実施した一般公開も2年目となり、平成21年度は通年催行の129日、ツアー実施回数も500回（催行率約97%）に及び、参加者も約8,000人となりました。

今年度は昨年度の実績を踏まえ、ツアーの出発時間を1時間間隔（昨年度は30分間隔）とし、世界遺産センターでの事前学習の充実や利用者の利便性向上を図りました。

年間の集客率をみると、昨年と同様に約78%となりましたが、行楽シーズンの8月、11月の参加人数が昨年度を下回っており、広告宣伝の面で課題も出てきました。

公開日：4月～11月、及び3月の週3日（金、土、日）と祝日（12月～2月末日までは休場）

午前と午後のそれぞれ2回のツアー（計4回/日）

定 員：1回20名以内

申込先：(株)石見観光大田営業所内 大久保間歩予約センター

電 話：0854-84-0750 FAX：0854-84-0751

H P <http://www.iwami.or.jp/ginzan>

Ⅶ. 職員及び運営スタッフ（平成21年度）

■石見銀山世界遺産センター

【大田市】

小野 康司（石見銀山課長）
遠藤 浩巳（課長補佐・保護調整係長） 西村 崇司（課長補佐・世界遺産センター長）
長嶺 康典（遺跡調査係長） 中田 健一（世界遺産係長）
楫 隆宏（主任） 青木 俊介（主事）
山藤かおり（嘱託職員 案内窓口担当） 石橋富士子（同） 森山のどか（同）
加藤 真貴（嘱託職員 遺跡管理員）
湯川 登（嘱託職員 大久保間歩管理員）
海塚 千明（臨時職員 事務補助H21/9末まで） 宇谷 京子（臨時職員 事務補助H21/10/1から）
向田 直美（臨時職員 案内窓口担当）
曾我 冴美（パート 案内窓口担当） 白枝 智子（同） 景山 浩子（同） 川戸 智子（同）
島田美由紀（同） 山根 弥生（同H21/5/5まで） 狩野 裕子（同H21/5/11から）
新川 隆（調査補助員） 尾村 勝（同） 松尾 賢二（同）
高村 玲子（遺物整理員） 井上 伸子（同） 浅野 美貴（同） 松原 絵麻（同H21/6末まで）

【島根県】

椿 真治（島根県教育庁文化財課世界遺産室専門研究員・大田市駐在）
守岡 正司（同）
目次 謙一（島根県教育庁文化財課世界遺産室主任研究員・大田市駐在）
引野 佳幸（島根県教育庁文化財課世界遺産室企画員・大田市駐在）
中木紗友美（島根県教育庁文化財課世界遺産室嘱託員・大田市駐在）

■大田市教育委員会 教育部 石見銀山課

小川 和邦（教育長） 大國 晴雄（教育部長） 小野 康司（石見銀山課長）
遠藤 浩巳（課長補佐・保護調整係長）
林 泰州（課長補佐・町並み交流センター長・町並み保存係長）
西村 崇司（課長補佐・世界遺産センター長・世界遺産センター係長）
長嶺 康典（遺跡調査係長） 中田 健一（世界遺産係長）
今田 善寿（主任） 楫 隆宏（同） 大門 克典（同）
瀧橋 洋祐（副主任） 松浦 満（同）
山内 健（主事） 青木 俊介（同）

Ⅷ. 利用案内

■開館時間：8時30分～17時30分（有料展示室9:00～17:00、最終入館16:30）

※ただし、3月1日から11月末日までは8時30分～18時00分

■休館日：毎月最終週の火曜日、年末年始

■観覧料：大人300円 小中学生150円（団体20名以上50円引き）

■交通案内

○京阪神方面から

基本ルート

（米子自動車道経由）山陰自動車道（出雲 I C）～国道9号線～県道31号線～石見銀山

※出雲 I C から石見銀山まで約50km

車で約60分

○松江・出雲方面から

基本ルート

山陰自動車道（出雲 I C）～国道9号線～県道31号～石見銀山

※出雲 I C から石見銀山まで約50km

車で約60分

○広島(九州)方面から

基本ルート

（中国自動車道千代田 J C T）～浜田自動車道（大朝 I C）～国道261号線～県道40号線～県道31号線～石見銀山

※千代田 J C T から石見銀山まで約70km（自動車道：約15km、一般道約55km）

車で約80分

○益田方面から 基本ルート

国道9号線～県道31号線～石見銀山

※益田市（萩・石見空港）から石見銀山まで約105km

車で約140分

○関連交通の時刻表

交通機関

JR 大田市駅～石見銀山（世界遺産センター）

JR 大田市駅までは JR おでかけネット <http://www.jr-odekake.net/> 参照
石見銀山方面行きバスのりば（JR 大田市駅降りてすぐ）

石見交通株式会社 HP <http://iwamigroup.jp/> から『バス時刻表』参照
石見銀山方面→＜大森・大家線＞・＜川本線＞（大田市駅発）

※出発前には、各交通機関の時刻表をご確認下さい

※車でどの所要時間は、自動車道70km/h、一般道45km/hで計算しておりますが、道路の混み具合などにより変動があります

■問い合わせ

石見銀山世界遺産センター 〒694-0305 島根県大田市大森町イ1597番地3

電話：0854-89-0183 Fax：0854-89-0089

HP：<http://ginzan.city.ohda.lg.jp/>

E-mail：o-igwhc@iwamigin.jp

Ⅷ. 各種資料

1. 石見銀山遺跡に関する活動等日誌（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

■2009（平成21）年

□4月

- 4/1～ 市) 石見銀山観光施設外国人割引の開始
「世界遺産センター、重要文化財熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家住宅、龍源寺間歩」
セ) 本格的に世界遺産センター自主事業に着手
- 4/3～11/29 セ) 平成21年度大久保間歩一般公開ツアー
- 4/7 県市) 仙ノ山遊歩道・市道仙ノ山線供用開始に係る現地踏査検討会
- 4/10 セ) テーマ別調査研究：久喜・大林銀山現地調査（於：邑南町現地他）
- 4/10 天皇・皇后両陛下ご結婚50年（1989年、第125代天皇として陛下が即位）**
- 4/15～16 民) 石見銀山資料館文献調査（於：美郷町 林家）
- 4/18～ 市) 仙ノ山展望台遊歩道の供用開始
- 4/20 セ) テーマ別調査研究：久喜・大林銀山現地調査（於：邑南町現地他）
- 4/24～ セ) 『銀貨幣コーナー』の常設展示開始（於：世界遺産センター）
- 4/24 豚インフルエンザ（新型）が世界的拡大の様相を見せ世界保健機関（WHO）は警戒レベルをフェーズ5まで引き上げ（5/9、感染者が国内で初確認、12月までに死亡者が100人を超え休校・学級閉鎖などが相次ぐ）**
- 4/25～ 市) 電子マネー「石見銀山WAON」サービスイン
「世界遺産センター、重要文化財熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家住宅、龍源寺間歩、五百羅漢、石見銀山資料館、勝源寺、お土産処（市観光協会）、ペロタクシー」

□5月

- 5/9～10 県) 第40回「1617会・勝瑞」例会参加（於：徳島県板野郡藍住町）
- 5/11 市) 大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会（於：温泉津まちづくりセンター）
- 5/12 セ) テーマ別調査研究：久喜・大林銀山現地調査（於：邑南町郷土資料館他）
- 5/13 協) 石見銀山基金募金委員会幹事会（於：大田商工会議所）
- 5/14 セ) 石見銀山資料館との調査研究会
- 5/18 県市) 石見銀山遺跡保存管理委員会・幹事会（於：松江市）
- 5/25 セ) 第1回夜学「世界遺産センターが目指すもの」（於：世界遺産センター）
- 5/26 セ) 田中義昭氏、立正大学池上悟教授他石造物調査指導会（於：温泉津沖泊街道周辺）
- 5/27 県市) 石見銀山遺跡保存管理委員会（於：世界遺産センター）
- 5/30 セ) 第1回仙ノ山ウォーク（於：仙ノ山遊歩道、清水寺跡、選鉱場跡、蔵之丞坑他）
セ) 文献調査指導会（於：古代出雲歴史博物館）

□6月

- 6/1～7/5 セ) 『辻が花染丁子文道服再現品』の第1期展示公開（於：世界遺産センター）
- 6/1 セ) 第1回公開講座「辻が花染丁子文道服再現品の制作」（於：世界遺産センター）
- 6/2～3 市) 文化庁記念物課市原富士夫調査官現地指導
- 6/2 市) 第6回石見銀山遺跡整備検討委員会（於：大田市役所）
- 6/8 セ) 第2回夜学「鉱山遺跡の調査」（於：世界遺産センター）
- 6/11 セ) 石見銀山資料館との調査研究会

- 6/15 セ) 石造物調査 (於: 温泉津町温泉津沖泊道周辺)
- 6/17 県) 心に残る文化財子供塾・温泉津中学校 (於: 世界遺産センター)
- 6/22 短時間集中豪雨・小災害発生**
- 6/25~26 セ) 平成21年度第1回石見銀山遺跡客員共同検討会 (於: 世界遺産センター)
- 6/25~8/2 民) 戦国、西国五大名展 (於: 石見銀山資料館)
- 6/25 米国ポップス歌手でKing of Popと称されたマイケル・ジャクソン氏が死去**
- 6/27~7/2 市) 熊谷家住宅の夜間公開 (於: 熊谷家住宅)
- 6/27~8/2 セ) 世界遺産・石見銀山遺跡がつなぐ銀の道スタンプラリー (世界遺産センター、三瓶自然館サヒメル、古代出雲歴史博物館の3館合同企画)
- 6/27~8/31 セ) 企画展『石見銀山百景』写真展 (於: 世界遺産センター)
- 6/27 セ) 同上企画「ぎ・ん・ぶら〜テンピー・雲太くん・出雲ちゃんが行く大森の町並み散策〜」(於: 大森の町並み・世界遺産センター)
- 6/28 市) 第9回クリーン銀山 (於: 世界遺産センター周辺他)
- 民) 中村ブレイス(株)の第2回石見銀山文化賞贈呈式 (於: なかむら館 (大森町))
- 6/30~7/1 市) 文化庁記念物課佐藤正知主任調査官現地指導
- 民) 石見銀山資料館文献調査 (於: 美郷町 林家)
- 7月
- 7/1~10 セ) 「石見銀山周辺山野草展」(於: 世界遺産センター)
- 7/2~ セ) 『都市鉱山オブジェ』の常設展示開始 (於: 世界遺産センター)
- 民) 遺跡現地の音声ガイドサービス開始 (大田市観光協会)
- 7/2 市) 世界遺産登録1周年記念イベント
「世界遺産センター、龍源寺間歩、重要文化財熊谷家住宅、武家屋敷旧河島家住宅の無料開放」。「学校給食『登録記念日献立』」(於: 市内小中学校)。「世界遺産センター展示協力者5名への感謝状贈呈式」(於: 世界遺産センター)。「『石見銀山遺跡: 児童・生徒向け解説映像』の上映会」(於: 大田市立第三中学校)
- 7/4 セ) 第2回公開講座『『代官』川崎平右衛門定孝—石見銀山に至るまで—」(於: 世界遺産センター)
- 市) 夜間イベント「雑もの茶会」(於: 熊谷家住宅)
- 7/5 民) 大森町文化財一斉清掃 (於: 大森町地内)
- 7/6 セ) テーマ別調査研究: 磯竹鉛山現地調査 (於: 五十猛町地内)
- 7/9~10 セ) 文献調査 (於: 津和野町 堀家)
- 7/11 セ) 体験イベント「銀山の製錬作業を体験しよう!」(於: 世界遺産センター)
- 7/13 セ) 第3回夜学「石見銀山遺跡の史跡整備事業について」(於: 世界遺産センター)
- 7/13 臓器の移植に関する法律改正。脳死を人の死とすることを前提に1997年成立の現行法下では禁じられている15歳未満からの臓器提供が家族同意で可能となる。公布は1年後**
- 7/17 県市) 第3回石見銀山遺跡調査活用委員会 (於: 世界遺産センター)
- 7/17 石見東部を中心に局地的な豪雨。大森町では時間雨量が最大で51mm、最も被害の大きかった温泉津町では63mmを記録した**
- 7/18 セ) 京都国立博物館保存修理指導室村上隆室長考古資料分析調査指導会 (於: 世界遺産センター)
- 7/21 セ) 世界遺産センター展示室観覧5万人達成 (フルオープンから275日目)
- 市) 島根大学横田修一郎教授現地指導 (於: 石見銀山遺跡地内)

- 7/24 縣市) 広島県人会 (於: 広島市)
- 7/26 セ) 体験イベント「福光石をほってみよう! ~レリーフづくり」
(於: 世界遺産センター)
- 7/30~31 セ) 独立行政法人奈良文化財研究所保存修復科学研究室高妻洋成室長・脇谷草一郎
研究員石造物保存対策指導会 (於: 世界遺産センター・遺跡現地)
- 7/31 セ) 文献調査 (於: 島根県立図書館)
- 8月
- 8/2 市) 大田市民のまつり天領さん・大森会場
- 8/3 ~ 裁判員裁判制度スタート~1943年の陪審制制度以来66年ぶり**
- 8/4 縣市) 第1回人権・同和問題調査にかかる調査指導会 (於: 県第2分庁舎)
- 8/10 セ) 第4回夜学「考古学から見た石見銀山前史」(於: 世界遺産センター)
- 8/12~31 セ) 『辻が花染丁子文道服再現品』の第2期展示公開 (於: 世界遺産センター)
- 8/13~17 民) 大田市民訪問団によるホイアン (ベトナム) の世界遺産登録10周年記念国際
フェスティバルへの参加
- 8/17~19 セ) 石造物悉皆調査 (於: 温泉津町 金剛院)
- 8/27 セ) 文献調査 (於: 温泉津 重田家)
- 8/30 第45回衆議院議員選挙で自民党から民主党へ政権交代。9/16、鳩山由紀夫民主党代
表が第93代首相に指名される**
- 9月
- 9/2~4 セ民) NPO法人アジア水中考古学研究所・金沢大学海底調査
(於: 温泉津町沖泊。事前の分布調査)
- 9/2 セ) 文献調査 (於: 大森町 藤田家)
- 9/4 セ) 文献調査 (於: 美郷町 安田家)
- 9/6 市) 渡辺家住宅保存修理工事現場公開 (於: 渡辺家住宅)
- 9/12~15 民) NPO法人「緑と水の連絡会議」主催の竹林間伐作業 (於: 石見銀山遺跡石銀地区)
- 9/12~3/5 セ) 企画展示『発見! 地下に眠る大森の町』(於: 世界遺産センター)
- 9/14~16 セ) 文献調査 (於: 大田市立中央図書館/熊谷家文書)
- 9/14 セ) 第5回夜学「世界遺産から人間の歴史を考える」(於: 世界遺産センター)
- 9/16 セ) 石造物調査 (於: 温泉津町井田中正路)
- 9/17~20 民) NPO法人しまね歴史文化ネットワークもくもく主催の石見銀山体験講座
「2009石見銀山三日籠り」(於: 石見銀山遺跡地内)
- 9/20 民) 佐毘売山サミット (於: 大森町佐毘売山神社)
- 9/27 セ) 第10回クリーン銀山 (於: 世界遺産センター周辺他)
- 9/29~30 セ) 市内中学生職場体験受入 (於: 世界遺産センター/大田市立第一中学校)
- 9/30 市) 電気公用車2台配置 (於: 世界遺産センター)
- 10月
- 10/1 セ) 文献調査 (於: 温泉津町重田家)
- 10/2 民) 文献調査 (於: 石見銀山資料館/山内家)
- 10/3 セ) 第3回公開講座「地球科学から見た石見銀山とその周辺」(於: 世界遺産センター)
- 10/7 県) 心に残る文化財子ども塾 (於: 川合小学校)
- 10/9~12 セ民) NPO法人アジア水中考古学研究所・金沢大学海底調査海底調査
(於: 温泉津町温泉津湾・沖泊)
- 10/14 民) 文献調査 (於: 石見銀山資料館/山内家文書)

- 10/15 セ) 文献調査 (於: 美郷町 安田家)
- 10/16 国) 文化審議会が大田市温泉津重要伝統的建造物群保存地区の追加選定を答申
- 10/17~11/ 8 セ) 『辻が花染丁子文道服・再現品』の第3期展示公開 (於: 世界遺産センター)
- 10/20~21 セ) 文献調査 (於: 鹿足郡津和野町堀家)
- 10/20~22 セ) 県立高校職場体験受入 (於: 世界遺産センター/県立島根中央高校)
- 10/20 セ) 第6回夜学「世界遺産センターフルオープン1周年を迎えて」
(於: 世界遺産センター)
- 10/23 セ) 文献調査 (於: 古代出雲歴史博物館/熊谷家文書)
- 10/25 任期満了に伴う大田市長選が投開票され、竹腰創一市長が2期目の当選**
- 10/25 市) 夜間イベント「雑もの茶会」(於: 熊谷家住宅)
- 10/28~29 民) 石見銀山資料館文献調査 (於: 美郷町 林家)
- 10/31 県市) 第1回世界遺産フォーラム (於: 大田市民会館)
- 11月
- 11/ 1 民) 世界遺産フォーラム関連企画・石見銀山ガイドの会創立10周年記念「世界遺産石見銀山を歩く」(銀山街道等5コース)
- 11/ 4 ~ 6 セ) テーマ別調査研究:大庭康時客員研究員他遺構遺物調査(於:石見銀山遺跡地内他)
- 11/ 5 セ) 発掘調査現地指導会: 田中義昭氏・島根大学大橋泰夫教授
(於: 石見銀山遺跡本谷地区他)
- 11/ 9 協) 第8回石見銀山協働会議全体会 (於: 大田商工会議所)
セ) 文献調査 (於: 大屋町 大雄寺)
- 11/12~13 セ) 平成21年度第2回石見銀山遺跡客員共同検討会 (於: 世界遺産センター)
- 11/16 セ) 第7回夜学「石見銀山遺跡の保存管理」(於: 世界遺産センター)
- 11/25~26 セ) 石見銀山遺跡客員共同検討会「石見銀山遺跡・生野銀山共同研究会議」
(於: 兵庫県朝来市生野銀山他)
- 11/27 セ) 文献調査 (於: 島根県立図書館)
- 11/30 セ) 文献調査 (於: 美郷町 安田家)
- 12月
- 12/ 2 ~ 3 民) 石見銀山資料館文献調査 (於: 美郷町 林家)
- 12/ 4 市) 第7回石見銀山遺跡整備検討委員会 (於: 大田市役所)
市) 文化庁記念物課市原富士夫調査官現地指導
- 12/ 8 国) 大田市温泉津重要伝統的建造物群保存地区の追加選定の官報告示
- 12/ 8 ・10 セ) 三瓶自然館サヒメル中村唯史グループリーダー石造物調査指導会
(於: 石見銀山遺跡周辺)
- 12/10~11 セ) しまねミュージアム協議会研修会 (於: 世界遺産センター)
- 12/10 国) 文化審議会世界文化遺産特別委員会において、文化庁が石見銀山遺跡の「資産範囲の軽微な変更」の方針を表明
セ) 県立八雲立つ風土記の丘今岡利江氏石造物調査指導会 (於: 石見銀山遺跡周辺)
- 12/10 オバマ米大統領がノーベル平和賞を受賞**
- 12/12 民) 山陰合同銀行企業の森づくり事業 (於: 高山まちづくりセンター他)
- 12/14 セ) 文献調査 (於: 温泉津重田家)
セ) 第8回夜学「出土品から見た石見銀山」(於: 世界遺産センター)
- 12/19~ 1/11 セ) 『辻が花染丁子文道服・再現品』の第4期展示公開 (於: 世界遺産センター)
- 12/19 民) 第3回銀山街道わくわくサミット (島根県立大学。於: 世界遺産センター)

- 12/22 縣市) 第4回石見銀山遺跡調査活用委員会 (於:温泉津コミュニティセンター)
 12/23 セ)『こもんじょ』を読んでみよう (於:世界遺産センター)

■2010 (平成22) 年

□1月

- 1/12 セ) 第9回夜学「平成21年度石見銀山遺跡『本谷・安原谷地区』発掘調査成果」
 (於:世界遺産センター)
 協) 石見銀山協働会議NPO法人化準備委員会 (於:市庁舎)
 1/18 国) ユネスコに対し世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の資産範囲の軽微
 な変更の関する申請を行う
 民) 石見銀山ガイドの会が創立10周年
 1/20~21 セ) 文献調査 (於:山口県文書館)
 1/23~24 セ) 島根ふるさとフェアで世界遺産センターのPR (於:広島県立総合体育館)
 1/27~28 セ) 神戸市立博物館小野田一幸主査古地図調査指導会 (於:なかむら館他)
 1/31 縣市) 文化財防火デーに伴う指定文化財の防火・消火装置点検等

□2月

- 2/8 セ) 第10回夜学「古文書にみる石見銀山とその周辺地域」(於:世界遺産センター)
 2/9~10 セ) 文献調査 (於:山口県文書館)
 2/18~19 セ) テーマ別調査研究:考古学的調査 (於:世界遺産センター)
 2/20 セ) 第2回『こもんじょ』を読んでみよう (於:世界遺産センター)
2/17~28 第21回オリンピック冬季競技大会がカナダ・バンクーバーで開催
 2/23 縣市) 文化庁補助事業実態調査 (於:世界遺産C)
 2/26 縣市) 第2回人権・同和問題調査にかかる調査指導会 (於:県第3分庁舎)
2/27 南米チリでマグニチュード8.8のチリ地震が発生
 2/28 市) シンポジウム「調査から10年 温泉津の未来を展望しよう」(於:温泉津会館)

□3月

- 3/2 セ) 文献調査 (於:古代出雲歴史博物館)
 3/5~6 セ) 平成21年度第3回石見銀山遺跡客員共同検討会(於:県立古代出雲歴史博物館他)
 3/5~28 セ民) 平成21年度大久保間歩一般公開ツアー
 3/6~4/23 セ) 発掘調査ミニ速報展「本谷・安原谷地区」(於:世界遺産センター)
 3/7 セ) 第4回公開講座「石見銀山。調査研究最前線!一鉦脈と採掘一」
 (於:世界遺産センター)
 3/8 セ) 第11回夜学「大森の町並み」(於:世界遺産センター)
 3/13~31 セ)『辻が花染丁子文道服・再現品』の第5期展示公開 (於:世界遺産センター)
 3/17 市) 石見銀山景観保全審議会 (於:大田市役所)
 3/20~4/4 セ) イベント「石見銀山トレジャーハンティング」
 (於:世界遺産センター・熊谷家住宅・武家屋敷旧河島家・町並み交流センター)
 3/23 セ) 文献調査研究会 (於:スカイホテル大田)
 3/24~25 セ) 兵庫県朝来市教育委員会現地視察
 3/29 セ) テーマ別調査研究:間歩確認調査 (於:水上町地内)

※凡例

国=国事業 市=大田市事業 県=島根県事業 セ=世界遺産センター事業 協=官民協働 民=民間事業

2. 石見銀山関係予算（平成21年度）

【大田市分】

（単位：千円）

事業名称	決算額	事業内容
友好都市「笠岡市」との交流促進事業	204	笠岡市大正琴琴瑛会25周年演奏会参加補助（さわらびシンフォニックバンド、大正琴琴扇会）
新エネルギー導入促進事業	424	世界遺産センター電気自動車2台の環境保護PR用マーキング
石見銀山協働推進事業	2,648	石見銀山協働会議全体会の開催 外
石見銀山基金事業	1,889	寄附協力要請、石見銀山基金募金委員会負担金
石見銀山基金・新規積立金	68,210	一般寄附金（138件）、県補助金、龍源寺間歩入場料
緊急雇用創出事業	20,022	石見銀山環境対策事業（観光流通課）、遺跡環境整備・歴史資料整理（石見銀山課）
ふるさと雇用再生特別交付金事業	4,588	大田市観光振興（観光プロデューサーの設置）
イベント補助金	2,120	天領さん・温泉津夏祭りに対するイベント補助 外
観光協会補助	18,000	大田市観光協会への運営助成
大田市観光ガイド養成事業	484	石見銀山ガイドの養成
石見銀山観光客対策事業	17,583	銀山受入対策（交通誘導員配置、看板設置工事費、交通対策周知経費 外）
石見銀山龍源寺間歩管理運営費	12,578	石見銀山龍源寺間歩管理運営費
石見銀山龍源寺間歩整備事業	473	間歩管理棟入口側に上水道給水管新設
地域活力基盤創造交付金事業（銀山関連分）	79,600	銀山線：災害防除L=170m、W=3.5m、交通安全L=813m、W=2.5~5.5m。新切間歩前公園進入路整備：L=79m
道路災害防除事業（銀山線分。繰越含む）	38,365	L=230m、W=3.5m
一般道路整備事業（大屋大森線分）	5,020	待避所2ヶ所
街なみ環境整備事業（繰越含む）	177,900	旧銀山街道の無電柱化、道路舗装、側溝整備を中心とした整備（H17~21）H21美化化：L=560m（側溝）、970m（舗装）
石見銀山公園整備事業	2,298	遊歩道かさ上げ改修工事 L=25m
審議会委員報酬等	49	重要伝統的建造物群保存地区保存審議会開催経費
町並み交流センター管理運営費	7,078	町並み交流センター管理運営費
武家屋敷管理運営費	3,750	武家屋敷管理運営費
世界遺産センター電気自動車車庫整備事業	4,620	木造瓦葺平屋建 33㎡（200V急速充電対応）
石見銀山遺跡総合調査事業	16,542	石見銀山遺跡の発掘調査、出土遺物の保存処理
石見銀山遺跡総合整備活用事業	78,365	清水谷地区環境整備、サイン等設置、山吹城跡見学道保存整備 外
史跡渡辺家住宅保存活用事業	91,914	史跡渡辺家住宅の保存修理
石見銀山遺跡拠点施設等管理運営費	48,704	世界遺産センター管理運営費
石見銀山遺跡史跡公有化事業	10,003	柑子谷地区の土地買い上げ、用地測量、不動産鑑定 外
大久保間歩管理運営費	10,135	大久保間歩一般公開にかかる管理運営費
重要伝統的建造物群保存地区整備事業	59,178	国補助大森3件・温泉津6件、市補助大森2件・温泉津1件 外
重要文化財熊谷家住宅活用事業	15,896	くらしの展示・体験学習・日常管理・保守点検業務委託外
国指定文化財保存修理事業	2,390	史跡羅漢寺五百羅漢、清水寺の保存修理に対する補助
その他物件費等	160	防災施設管理費等
合計	801,190	

【島根県分】

（単位：千円）

事業名称	予算額	事業内容
石見銀山遺跡調査活用委員会	1,716	専門家や有識者で構成する、石見銀山遺跡の調査活用に係る指導・助言機関の主催・運営
基礎調査研究事業	15,120	埋蔵文化財発掘調査（大田市）に係る補助、石造物調査、文献調査、考古学的調査 等
テーマ別調査研究事業	5,308	石見銀山遺跡に係るテーマを、客員研究員と共同で調査研究「最盛期石見銀山の復元」 「東アジアの鉱山研究」
シンポジウム開催事業	7,000	世界遺産登録地の連携による「第一回世界遺産フォーラム」の開催
ふるさと世界遺産学習推進事業	1,142	小学校向け、世界遺産学習教材（DVD／リーフレット）の作成等
世界遺産保存管理費	3,000	文化庁協議にかかる経費など
石見銀山遺跡整備事業	54,952	銀山柵内間歩の安全対策など、大田市への補助金。各所の保存修理に関する補助。等
世界遺産来訪者急増対応事業	12,754	定時ガイド、現地における観光案内業務支援など。
拠点施設整備事業	2,309	世界遺産センターの整備費を支援 ※大田市への交付金
拠点施設管理運営費	13,389	世界遺産センターの管理運営を支援 ※大田市への交付金
ユネスコ提出資料作成費	2,272	世界遺産登録範囲
石見銀山基金造成支援事業	18,911	石見銀山遺跡の保存活用に係る官民の協働事業を支援する大田市基金の造成を支援 ※大田市への補助金
合計	137,873	

※予算額は、平成21年度2月補正後の予算額

3. 刊行物等

平成21年度刊行物等一覧

No	種類	機 関	書 名・タイトル	備考・製作者等
1	事業報告書	鳥根県教育委員会 大田市教育委員会	『石見銀山遺跡石造物調査報告書』10	
2	〃	鳥根県教育委員会	『石見銀山文献調査報告書』V	
3	〃	大田市教育委員会	『石見銀山遺跡発掘調査概要』19	
4	〃	鳥根県教育委員会 大田市教育委員会	『世界遺産石見銀山遺跡の研究』1	
5	〃	大田市教育委員会	『重要伝統的建造物群保存地区大田市温泉津伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書（補訂版）』	
6	〃	大田市教育委員会	『2009温泉津町並み保存活用推進事業報告書』	
7	〃	鳥根県教育委員会	『第1回世界遺産フォーラム「世界遺産－まもる・みる・いかす」』報告書	
8	〃	大田市教育委員会	『石見銀山世界遺産センター 2008（平成20年度）年報』	
9	修理概報	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報9	
10	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報10	
11	〃	大田市教育委員会	温泉津伝統的建造物群保存地区修理概報11	
12	〃	大田市教育委員会	大森銀山伝統的建造物群保存地区修理概報94	
13	映像	大田市教育委員会	児童生徒向け解説映像「知ろう！探ろう！石見銀山」	(株)トータルメディア開発研究所

4. 関係法規

○大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例

平成19年9月25日
大田市条例第27号

(設置)

第1条 世界遺産として登録された石見銀山の文化的価値に対する理解を深め、もって市民の文化の振興と向上並びに学術研究の発展及び遺跡の保全活用に寄与するため、大田市石見銀山拠点施設（以下「拠点施設」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 拠点施設の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
石見銀山世界遺産センター	大田市大森町イ1597番地3

(構成)

第3条 拠点施設は、次の各号に掲げる施設をもって構成する。

- (1) ガイダンス棟
- (2) 展示棟
- (3) 収蔵体験棟
- (4) 駐車場

(開館時間)

第4条 拠点施設の開館時間は、午前8時30分から午後5時30分までとする。ただし、大田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、必要があると認めるときは、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第5条 拠点施設の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、休館日に開館し、又は臨時に休館日を定めることができる。

- (1) 毎月最終の火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

(入館の制限)

第6条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、拠点施設への入館を拒否し、又は拠点施設からの退去を命ずることができる。

- (1) 拠点施設の施設、設備、展示品及び資料等をき損し、汚損し、又は滅失するおそれのある者
- (2) 他人に危害を加え、又は迷惑になる行為をしようとする者
- (3) 前2号に掲げる者のほか、拠点施設の管理上支障があると認められる者

(遵守事項)

第7条 拠点施設に入館しようとする者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 拠点施設の施設、設備、展示品及び資料等をき損し、汚損し、又は滅失する行為をしないこと。
- (2) 指定された場所以外で喫煙及び飲食をしないこと。
- (3) 他の入館者に危害を加え、又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (4) その他拠点施設の管理上必要な指示に違反しないこと。

(使用の許可)

第8条 拠点施設の施設及び設備（以下「施設等」という。）を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 教育委員会は、施設等の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第9条 前条第1項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、施設等の使用の権利を譲渡し、又は転貸することはできない。

(許可の取消し等)

第10条 教育委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当するとき、又は拠点施設の管理上特に必要があると認めるときは、その許可を取り消し、又は第8条第2項の規定により付した条件を変更することができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。
- (2) 第8条第2項の規定により許可に付した条件に違反したとき。
- (3) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 前項の措置を受けたことによって使用者が損害を受けた場合においても、市は補償の責任を負わない。

(使用料)

第11条 使用者は、別表第1及び別表第2に定める使用料を納付しなければならない。

(観覧料)

第12条 拠点施設の展示室を観覧しようとする者（未就学児を除く。）は、別表第3に定める観覧料を納付しなければならない。

(使用料等の減免)

第13条 市長は、公益上その他特に必要があると認めるときは、使用料又は観覧料（以下「使用料等」

という。)を減額し、又は免除することができる。

(使用料等の不還付)

第14条 既に納められた使用料等は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めるときは、これを還付することができる。

(原状回復)

第15条 使用者は、施設等の使用が終わったときは、直ちに当該施設等を原状に復さなければならない。

(損害賠償)

第16条 拠点施設の施設等及びその他の物件を故意又は過失によりき損し、汚損し、又は滅失した者は、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成19年10月1日から施行する。

附 則 (平成20年条例第29号)

この条例は、平成20年10月20日から施行する。

別表第1 (第11条関係)

施設使用料

区分	使用料 (1時間につき)
オリエンテーション室	800円
多目的室	200円
体験学習室	200円

備考

- 1 使用時間が1時間未満であるときは、1時間とし、使用時間が1時間を超える場合において1時間未満の端数があるときは、これを1時間として計算する。
- 2 冷暖房設備を使用した場合は、使用料の5割相当額を加算した額を使用料とする。
- 3 使用料の額には、消費税相当額を含む。

別表第2 (第11条関係)

設備使用料

種別	名称	単位	使用料	超過時間1時間当たり
音響設備	ワイヤレスマイク	1本1回	700円	200円
	ビデオプロジェクター	1式1回	4,000円	600円
映像設備	CD・DVDプレーヤー	1台1回	2,000円	300円

備考

- 1 午前 (午前9時から正午まで)、午後 (午後1時から午後5時まで) の使用区分をもってそれぞれ1回とする。
- 2 使用料の額には、消費税相当額を含む。

別表第3（第12条関係）

観覧料

区分		単位	金額	備考
個人	大人	1人につき	300円	高校生以上
	小中学生	1人につき	150円	
団体	大人	1人につき	250円	団体は、20人以上の場合とする。
	小中学生	1人につき	100円	

備考 観覧料の額には、消費税相当額を含む。

○大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例施行規則

平成20年10月7日

大田市教育委員会規則第10号

（趣旨）

第1条 この規則は、大田市石見銀山拠点施設の設置及び管理に関する条例（平成19年大田市条例第27号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（使用の許可）

第2条 条例第8条の規定により使用の許可を受けようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（様式第1号）を大田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の申請を許可したときは、使用許可書（様式第2号）を交付するものとする。

（使用後の清掃）

第3条 条例第8条第1項の許可を受けた者は、施設等の使用を終えたときは清掃及び後片付けをした後、職員の検査を受けなければならない。

（使用料の減額又は免除）

第4条 次の各号に掲げるものは、条例第13条の規定により使用料から当該各号に定める額を減額し、又は免除（以下「減免」という。）することができる。

(1) 大田市石見銀山拠点施設（以下「拠点施設」という。）の利用を促進すると認められるもの 大田市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める額

(2) 小学校、中学校、高等学校又はこれらに準ずる学校が編成した教育課程に基づく活動と認められるもの 使用料の額の全額

(3) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特別の理由があると認めるもの 教育長が別に定める額

（観覧料の減免）

第5条 次の各号に掲げるものは、条例第13条の規定により観覧料から当該各号に定める額を減免することができる。

(1) 小学校の児童、中学校及び高等学校の生徒又はこれらに準ずる者で、学校が編成した教育課程に基づく活動により教職員に引率されて観覧するもの 観覧料の額の全額

(2) 前号に掲げるものを引率する教職員 観覧料の額の全額

(3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の身体障害者手帳、療育手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者厚生相談所において知的障害者と判定された者に対して交付される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。）又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の精神障害者保健福

祉手帳の交付を受けている者 観覧料の額の全額

(4) 前号に掲げる者の介護者（原則として介護を受ける者と同じ人数までに限る。） 観覧料の額の全額

(5) 前各号に掲げるもののほか、教育長が特別の理由があると認めるもの 教育長が別に定める額
(使用料等の減免申請)

第6条 前2条の規定により使用料及び観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ使用料減免申請書（様式第3号）又は観覧料減免申請書（様式第4号）を教育長に提出し、教育長の承認を受けなければならない。ただし、前条第3号及び第4号に掲げる者並びに同条第5号に掲げる者で教育長が別に定めるものについては、この限りでない。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成20年10月20日から施行する。

○大田市石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例

平成17年10月1日

条例第172号

(設置)

第1条 多様な樹木や森林などの自然観察や自然とのふれあいを通して、市民のふるさと意識の醸成を図るとともに、市外からの来訪者に憩いの場を提供するために、石見銀山街道市民ふれあいの森公園（以下「公園」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 公園の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
石見銀山街道市民ふれあいの森公園	大田市大森町イ1597番地3

(行為の禁止)

第3条 公園においては、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、市長が正当な理由があると認める場合は、この限りでない。

- (1) 公園の自然環境を損なうこと。
- (2) 公園をき損し、又は汚損すること。
- (3) 鳥獣類を捕獲し、殺傷し、又は脅かすこと。
- (4) 指定された場所以外の場所に車両を乗り入れ、又は止め置くこと。
- (5) 危険物を持ち込み、又はたき火をすること。

(行為の制限)

第4条 公園において、次の各号のいずれかに掲げる行為をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

- (1) 広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。
- (2) 物の販売その他の営業行為をすること。
- (3) 募金その他の勧誘行為をすること。
- (4) 催しもの等を開催すること。

2 市長は、公園の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に条件を付することができる。
(許可の取消し等)

第5条 市長は、前条第1項の許可を受けた者が次の各号のいずれかに該当するとき、又は公園の管理上特に必要があると認めるときは、その許可を取り消し、又は同条第2項の規定により付した条件を変更することができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項の規定により許可に付した条件に違反したとき。
- (3) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(損害賠償の義務)

第6条 公園の施設又は設備その他の物件を故意又は過失によりき損し、汚損し、又は滅失した者は、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成17年10月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、合併前の石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例（平成11年大田市条例第4号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年条例第1号）

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

○大田市石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例施行規則

平成17年10月1日

規則第135号

(趣旨)

第1条 この規則は、大田市石見銀山街道市民ふれあいの森公園の設置及び管理に関する条例（平成17年大田市条例第172号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(行為の許可の申請)

第2条 条例第4条第1項の許可を受けようとする者は、行為許可申請書（様式第1号）を市長に提出しなければならない。

(行為の許可)

第3条 市長は、前条の許可をしたときは、行為許可書（様式第2号）を交付するものとする。

(その他)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附 則

この規則は、平成17年10月1日から施行する。

石見銀山世界遺産センター
IWAMI GINZAN WORLD HERITAGE CENTER

2009 年報
(平成21年度)

2010年12月

島根県大田市教育委員会
島根県大田市大田町大田ロ1,111番地

印刷・製本 つきはし印刷



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

国際連合教育科学
文化機関(ユネスコ)



• Iwami Ginzan Silver Mine and
its Cultural Landscape
• Inscribed on the World Heritage List in 2007

• 石見銀山遺跡とその文化的景観
• 2007年世界遺産一覧表記載



ユネスコの精神は平和と人権尊重です